大日本蠶絲會報告

第七號

明治廿五年十二月

（非賣品）

大日本蠶絲會

大日本蠶絲會報告第七號目次

●論說

◎絹絲の說　大日本蠶絲會賛成會員　理學博士　佐々木　忠二郎

●寄書

◎蠶業に關する內外氣候概況　大日本蠶絲會賛成會員　井上喜太郎

◎全世界蠶業狀況報告（續第六號）　大日本蠶絲會賛成會員　今岡直次郎

●統計

◎明治四十年より生絲輸出累年統計◎製絲十人殺以上の製數等統計◎十一月中生絲屑物輸出額統計◎十一月中絹織物輸出額統計

●問答

◎蠶豆豆起與名の原因問答

●外報

◎蠶豆豆其他◎六十二萬圓の生絲海底に沈む◎伊太利國蠶絲組業の統計

●雜報

◎蠶業傳習所と生絲直檢場協議會へ出んとす◎生絲檢査所設置の建議案議會へ出つ◎十一月九日横濱生絲子合商最高價格標準相場◎最終大學々課程の改正◎蠶絲會社秋收絲と品質上の優劣◎蠶絲會社酒取給規則の改正◎一萬三百生繭販賣成績合會◎役員規則中野會の保證◎細四蠶絲會第二回通常會給米◎製絲汽鑵の爆發◎大日本蠶絲會員の新知◎訃報

◎大日本蠶絲會役員

◎技藝委員

今岡直次郎　農學士　伊知地經之助
今藤小左衛門　星野長太郎
農學士　本多岩次郎　農學士　押川時吉
農學士　小野祇三郎　農學士　大林雄也
營野勇右衛門　川村永之助
農學士　横井時敬　高橋信貞
高木三郎　農學士　田原休之丞
農學士　田島武平　高井太郎
田島彌平　農學士　田島彌太郎
桃木喜三　農學士　田島武平
町田常次郎　松永飯作
藤木勝右衛門
船津傳次平　農學士　青山光
新井領一郎　理學博士　佐々木忠二郎
農藝化學士　木村九蔵　理學士　浜田常明　農學士　澤野淳
芝山宗太郎　自井光太郎
下田伊左衛門
獨澤佐七　理學士　平賀義美

◎評議員

星野長太郎　岡鎧
岡野知正　横井時敬
桃木喜三　佐々木忠二郎

◎幹事

小畑岩次郎
御法川直三郎
吉益愛正

大日本蠶絲會報告第七號

論說

編者曰く左の一篇は大日本蠶絲會賛成會員理學博士佐々木忠二郎氏が演說の筆記にして當業者の最も熟知すべき說なり

◎絹絲の說

大日本蠶絲會賛成會員　理學博士　佐々木　忠二郎

諸君、私は「絹絲の說」と申しまする題で少し許りお話を申上げたいと思ひます、さて絹絲と申しまするのは申上げる迄もなく、實に大開社會に在つては要用缺くへからざるものであります、此絹絲と申しまするものは一體何から出來るかと申しますれば、則蠶兒の躰より出來て參るものであつて蠶兒の躰の中には、此絹絲を搾へる機械が具つて居り、其機械で搾へるものであります、則蠶兒が眠に就きます際には必ず絹絲を吐きまして之を桑葉に張付け、從つて此絹絲に尼脚の爪を引掛け、躰の動かさる樣に成して脫皮をなし、次て蠶兒は段々と成長し老熟して、やがて繭に化せんとする前になりますと、又々絹絲を吐きまして繭を造り、身を其中に潛めて蛹となります、故に絹絲なるものは就眠の際には其身を碓と桑葉に付けて動かさる樣になし、且繭の容るゝの繭をも造つて蛹躰を保護し、其發達をして完全

ならしむるには最必要のもので御座ります」此絹絲を拵へるものは蠶の躰の中にある一ッの道具てあるが其道具は蠶見の何れの部分に存しあるかと申しますれは、即蠶見の腹の方に ござりまして二つの長い袋から出來て ござります、此二ッの長い袋から出て來まする絲すぢは口に近き處で合して一本の絲縷となつて、吐絲口より出つるのでござります、右の二ッの袋は、各々上中下の三部に分つとか出來ます、即上の部は排泄管、中の部は貯管、下の部は分泌管と稱へるものでござりまして此三ッの部分の中、果して何れの部分より絲縷の原質を醸生するかと申しますれば即一番下の部分なる分泌管でござります今圖にかいてお示し申しますれは第一圖一斯ふ云ふ樣に上中下と三ッ……此三ッの部分よりして、後絹絲なるものが出來てあります、此三部の中て、分泌管では絹絲質と申しまするものを拵へ、第二の貯管に參りますれは、此部の分泌製造に係る絲膠即絹絲の膠質で右絹絲質が取り卷かれ、次て上の部即排泄管に至つて細長く伸ひます右三個の排泄管の、相合して一管となる處で、二本の絲縷も亦合して一本の絹絲となり、再ひ一種の粘液に包まれ、此粘液は固り絹絲を包むのみならず尙絹絲の通路を滑かにかなし、容易く口外に吐出せしむるの用に供するとの說もありますし蠶見が充分に成長して、今や繭を營まんとする場合の前に當り、其蠶見を割きて絹糸の袋を取り出し袋の長を測つて見ますれは幾と四十一瓏米三分三厘ござりまして其重さは一瓦六厘六毛七、今其容に至つては立方瓏米、即蠶見全

第一圖

躰の容に比較しますれは其五分の二たけの容を以て居りまする、さすれは、今や當に成繭せんとする前の蠶見を調へて見ますれは其腹は幾と絹絲の袋て滿されて居ります、夫れから又この絹絲質と絲膠と此二ッのものは同質の物てあると云ふ人もあります、成程成分は同樣てありますか量に至つては異なつておりまする一寸書きますれは

成分	絲膠	絹絲質
炭素	四六、五〇	四七、七〇
水素	六、〇四	六、三九
窒素	一七、四〇	一七、九一
酸素	三〇、〇六	一八、一〇

斯くの如く絲膠及ひ絹絲質の成分なる、炭水酸窒の四元素は、互に少し許り異なつて居りますまでに、大なる差はなきものなるに、如何して右二者は、其性質を異にすると云ふ點におきましては、大層說かありますが、中に就いて尤信すべき說は、絲膠を生ずる處の袋には一層多量の空氣管が存しており、從つて多量の空氣を之に供し即絲膠は常に多量の空氣に接します、接しますると少し其物の性質に變化を生し且その成分の量に於ても多少の變化即差を生すると云ふことでござります」扨前にもお話申上た通り絹絲と云ふものは最初は二本でありますのが、後ち口より吐出する時に當つては、一本の絹絲となりまして、吐絲管を通つて外に出るのてあります、而して此吐絲管と申しまする管は、其驅くを

第二圖

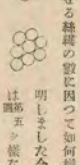
ざりまして、絲の通りまする管溝は、圓くなくして弦月形でありまず、只今圖に示きますれば第二圖斯樣な風であります、即この管の中に、弦月形の溝が穿たれて居ります、此溝の中で二本の絲繊が合して一本となり、口の外に出るのであります、夫れより空氣に觸れて乾いて、初めて絹絲となるのでございます、そこで今蠶兒が其口より吐き出しました處の、絹絲を取調へて見ますると、決して圓くはありませぬ、絹絲は圓いものゝやうに世人は多く申しますが、決して圓くはありませぬ、夫れは前に既に申し述へたる如く、絹絲が口の外に出る前には、弦月形の溝を通りまする間に依て、絹絲は其溝の形となりております第三圖斯ふてあります斯ふ云ふ風になつて出て來ます、夫故決して圓いものではございませぬ、扁たいものであります併しながら蠶兒の種類に依て、赤幾分か異なつて居ります、山繭の如きに至つても亦同樣なれども唯異なる處は細かい少し許り廣い位なと全躰の形は同じものであります」夫から又蠶兒の絹絲を能く顯微鏡で調へますと、絹絲の表面には細い條が着いて居ります、此條は蠶絲に固有のものであつて、一種特別の性質のものであると云つた人がありましたが此條など、云ふものは決して一種特別のものではなく、例へは丁度軟い飴を取つて之を引き延はしますと、壓にズツと延ひ、細い條が後に初めて出來るのであります」其蠶の絹絲でございますると、其の絹絲の中に數多の空虛か存しております第四圖斯樣な風であります、二本の絲繊か合して一本となり、粘液を帶

第三圖

第四圖

ひて引き伸はさるゝ時になりますと、此絹絲の中に存する空虛も亦同じく細長くなり、口から吐いたる絲を見ますると、恰度條の着いたるやうに見へまする此條は前にも述し申したる如く、決して特別に絹絲に存するものでなく圓い空虛の延長して條の形をなしたるものでございます」そして又絹絲を繰り取る時には、常に數繭の絹絲を合はすことでありまして或は四本五本、或は六本七本、或は十本でも合せると云ふやう、細太ともに各々人の好みに隨つて幾つも適意に拵へまする、此事に就きまして、佛蘭西のロビテイと云ふ人か面白い考を出しました、…此人は絹絲に就いては非常の熱心家であつて、いろ／＼の事を落はされた人てあります此人は絹絲の形を圓くするも平扁にするも合せる絲繊の數に因つて如何樣とも拵へ得らるゝと說明しました今圖にかいてお示し申せは第五圖五ツ樣なものてありまして、三

第五圖



本の絹絲を合せまれは二六色の形をなし、四本の絹絲を合せますれは圓く五本を合せますると少しく圓みを缺き、六本合せますれは、すつかり圓く八本合せますると再ひ少しく圓みを缺くと云ふ樣に說きました、然る處また伊太利のシヤアヂヤと申す人か此點に就き研究して、ロビテイ氏の說は何うも甘く參らぬとて再ひ之を試驗してロビテイ氏の所謂四本若くは七本の絹絲を

合すれば圓き絹絲となると云ふは、實際いつれも然るにあらず、假令同種の絹絲にても圓き處もあり又圓からざる處もあります依つてロビツチイ氏の說は到底一の規則となして用ふるとは出來ぬと、近頃は此說か變つて來ました、然し此點は隨分面白い事で、且有益なる事ゆゑ之か試驗に從事せらるゝ人の、出て來らんことを切に望みます」又絹絲の性質の良否は、主として蠶兒の種類に、大なる關係を有するものでありまして尙蠶兒を養ふ方法、桑葉の良否等にも色々關係あるに依つて良き絹絲を獲んと思ふならは先つ蠶種の良きものを撰ひ、蠶兒を飼育するにも能く注意し且良い桑葉を與へなければなりませぬ此三ツの事は共に宜しきを得なければ、良結果を得ることは、出來ませぬ、決して絲を繰り取る時のみにあらず、初から諸事に注意をまなければ決して良い絹絲を得ることは出來ませぬ、先つ今日は此位にして置きます

◎蠶業に關する內外氣候概況

我國農產物中內外貿易の首位を占め其一盛一衰忽ち國力の消長に關係する所のものは養蠶事業なり養蠶事業の盛衰は重に氣候の優劣如何に關するものなり故に氣候優等の國にして蠶業未た發達せす良品

大日本蠶業會幹事會員　井上甚太郎

●寄書

未た製出せざるは是れ人工の拙なるに由るものなれは之れか人工を巧みにし以て其發達を謀らざるへからず然るに其製品粗雜なるもの之を放棄して顧みざるか如きは則ち天の賜を空ふするものにして愚焉より甚きはなし或は氣候劣等の國にして却て優等の國に劣らざるの良品を製出するものありと雖も是れ人工の巧妙なるに因て然るものなれは氣候優等の國にして能く氣候を利用し人工を極むるに至ては氣候劣等の國は遂に壓倒せらゝは免れざるなり現今蠶業の技術尤も進み最良の精品を製出するは佛國を以て最とす伊太利之に次き我國其次に位する生產地なりと云ふ而して佛國、伊太利の如きは孰れも巧妙の技術を盡し殆んと改良に餘地なきもの、如し然れとも尙ほ之れか改良に意を凝らし相互に競爭して益々其發達進歩を致しつゝあるなり然るに我國の蠶業は改良の論甚た盛んなるも其効顯著ならす且の粗製濫造の弊年一年に甚しきを見る今日にして眞劇の改良を施し佛、伊兩國と相競爭するの覺悟を以て事に從はすんは徒に天の賜を空ふするのみにあらす實に我國の富源を失ふ甚し之より大なるものなかるべし

夫れ我國の氣候は佛國、伊太利に比較して敢て後劣あるに非す然れとも蠶業の發達品の精粗に至ては著しき差あり是れ他なし蠶種の撰擇及ひ蠶兒の飼育製絲の方法等凡も人爲の技術未た進歩せさるに由るなり而して彼の佛國、伊太利の如き殆んと改良に餘地なしと云ふは固より品質の改良を要せさるに非さるも主として蠶業に使役する勞働者の賃錢高價なるを以てなりと之に反し我國は勞働者の賃錢甚た低價なるを以て改良の餘地なきに至るを得べし我國の蠶絲は品質の如何に係はらす全躰價格低廉なるに由り益々之に改良を加へ世界市場の競爭に勝を制するを得べし然れとも我國漸次蠶業の發達するに

に随ひ勞働賃錢も亦た佛國、伊太利と其權衡を得るに至るは當然の事なれは其低廉なる今日に在て盛んに之を使役し充分に氣候と學理と應用し桑樹の栽培及ひ蠶絲の製造に力を盡さは我國の蠶業は佛國、伊太利に劣らさるの盛運を致すべきなり然るに絲に又た注意を惹せさるべからさるは清國に於ける蠶業なり人類もすれは清國を以て野蠻なりとし何等の事業を問はす之を度外視し直ちに歐米諸强國と相競爭して其權衡を保たんことを强むと雖も是れ亦たゝ誤見たるを免れす清國の事業は近時漸く發達し蠶業の如きは無る好成跡あり殊に我國に相隣し邦土の大なる人民の多き世界中無比の國なれは將來我國と通商貿易上に於て尤も直接の關係を有し交渉の類繁と來すは歐米諸國との關係の比にあらさるべし清國にして一朝農事に改良を施し蠶業を振起するに至ては我國の蠶業に影響を及すや蓋し鮮少にあらさるべし故に今日にして我國蠶業の發達を謀らんは蠶業は彼の占有する所となるのみならす遂に之を發達するの時期なきに至らん我國一大富源を造ると之を失ふとは嘗た此一事にあるのみ

左に内外著名の養蠶地方に係る氣候比較表を掲げ以て之れか參考を示さん

温　度　　振　氏

地名	國名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
鹿兒島	日本	六七	六三	一〇七	一六一	一九〇	二二四	二六六	二五六	二四六	一九四	一四六	九〇	一六七
福岡	全	五六	八一	九〇	一五一	一九一	二四八	二五三	二五一	二一一	一〇六	七八	一四四	一四八
廣島	全	四三	四三	七二	一三〇	一六九	二一〇	二四三	二七一	二四〇	一六〇	九六	一四四	一四〇
和歌山	全	四三	五六	七六	一四八	一七一	二一六	二五六	二六六	二四〇	一七〇	一四〇	七〇	一四六
岐阜	全	二五	二七	六六	一二九	一六七	二二四	二四四	二六六	二二二	一八六	一〇六	四四	一四一
東京	全	二二	二七	六六	一二六	一六七	二二四	二四六	二二六	二四六	一八六	一〇六	四三	一四五
長野	全	九七	一〇六	四二	一〇六	一四六	一八六	二四六	二四四	二〇一	一四六	八四	二六	一二四
鶴島	全	九七	四二	一〇四	一四六	一八六	二四四	二四六	二四四	二〇四	一四六	八四	二六	一二四
クチチ	伊太利	一二六	四二	一〇六	一四六	一八六	二四四	二四六	二四四	二〇四	一四六	八四	二六	一二四
ベルガモ	全	二四四	四〇	七七	一二七	一六四	二〇六	二四〇	二二六	一八六	一〇六	五六	一二四	一〇四
ベロナ	全	二六六	六〇	九四	一四六	一八六	二二六	二四六	二二六	一八六	一〇六	六四	一四四	一〇四
ファイレンズ	全	四四四	七二	九二	一四六	一八六	二〇〇	二四一	二四六	一八六	一〇六	六二	一四〇	一〇四
ナーブル	全	八六	一〇〇	一二六	一四六	一八六	二〇六	二四六	二四六	一八六	一〇六	六二	一四〇	一〇四
コセンザ	全	九六	七七	一〇一	一二六	一四四	一八六	二〇四	二四六	一八六	一〇四	八二	一四六	一〇二
ミレナ	全	一二〇	一二六	一四〇	一八六	二二六	二四六	二四六	二四六	一八四	一〇四	一二六	一四二	一四〇
レタス	全	九六	九六	一二四	一四六	一八六	二二六	二四六	二四六	一八四	一〇六	一二六	一四〇	一四〇
ローム	全	七二	八七	一〇六	一四六	一八六	二二六	二四四	二四六	一八六	一〇六	八六	一四六	一二六
ミラン	全	七二	八七	一〇六	一四六	一八六	二二六	二四四	二四六	一八六	一〇六	八六	一四六	一二六
ナイエス	佛蘭四	八二	九六	一二六	一四六	一八六	二二四	二四四	二四六	一八六	一〇六	八六	一四一	一四〇
プリバス	全	四二	九六	八六	一一一	一四八	一八四	二二六	二二六	一七四	一〇四	四四	一四七	一二七
バレンス	全	四二	七二	一二六	一四六	一八六	二二六	二四六	二二四	一七四	一〇四	四六	一四〇	一二〇
アビゾン	全	四六	九四	一二六	一四六	一八四	二二六	二四六	二二六	一八六	一〇六	六六	一四六	一二〇
ドワナナ	全	四七	七六	九二	一四〇	一八四	二二六	二四六	二四六	一八四	一〇六	六六	一四六	一二〇
モンペリ	全	九〇	八四	九二	一四六	一八四	二二六	二四六	二四六	一八二	一二六	九六	一四六	一二〇
エンベスト	全	七〇	八〇	九四	一四六	一八六	二二六	二四六	二四六	一八〇	一二六	九六	一四六	一二〇

パリー	仝	二、〇	五、二	六、三	九、三	一三、一	一五、九	一八、三	一七、三	一四、三	九、〇	六、五	三、五	一〇、〇
上海	支那	三、五	四、四	八、四	一三、〇	一八、六	二三、七	二八、一	二七、〇	二三、〇	一七、三	一〇、七	五、七	一五、二
福州	仝	—	—	—	一六、一	二〇、五	二七、八	二八、三	二七、六	二五、三	二二、六	一七、一	一三、七	二〇、三
北京	仝	(一)四、六	(一)一、四	五、一	一三、八	一九、九	二四、三	二六、一	二四、六	二〇、一	一二、五	三、八	(一)三、四	一一、八
廣東	仝	一三、七	一三、三	一八、三	二一、一	二四、一	二八、〇	二七、七	二六、九	二五、七	二二、二	一六、九	一二、四	二〇、七
雞籠	仝	一四、二	一四、六	一六、三	一八、九	二三、四	二七、四	二八、三	二七、六	二六、五	二三、三	一八、九	一七、〇	二一、四
香港	仝(英領)	一五、三	一五、三	一八、二	二二、六	二六、〇	二八、一	二八、七	二八、一	二六、七	二四、三	一九、九	一六、三	二二、五

最高温度

地名	國名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全年
鹿児島	日本	一一、九	一三、〇	一六、一	二〇、七	二三、八	二六、六	三〇、六	三一、三	二九、一	二四、四	一九、〇	一四、四	三一、三
福岡	仝	一一、〇	一三、三	一三、六	一九、八	二一、九	二七、〇	三〇、三	三〇、七	二八、九	二一、〇	一八、二	一四、九	三〇、七
廣島	仝	八、〇	九、〇	一三、三	一七、四	二三、〇	二五、一	二九、四	三一、五	二七、六	二三、三	一六、一	一〇、九	三一、五
和歌山	仝	八、四	八、六	一三、六	一八、四	二三、二	二五、六	二九、七	三一、五	二七、七	二一、九	一六、一	一一、五	三一、五
岐阜	仝	七、三	八、三	一一、八	一七、七	二一、九	二六、〇	二九、六	三一、四	二七、四	二二、二	一五、九	一〇、三	三一、四
東京	仝	八、三	八、六	一三、一	一七、一	二〇、九	二四、四	二八、四	二九、七	二六、〇	二〇、四	一五、五	一一、三	二九、七
長野	仝	三、六	五、六	一〇、三	一六、九	二〇、一	二五、七	二七、九	三〇、三	二五、七	一八、四	一三、四	八、三	三〇、三
福島	仝	五、五	八、六	一一、七	一八、〇	二〇、六	二五、五	二六、九	二九、三	二五、五	一八、八	一三、三	九、四	二九、三
クヂナ	伊太利	一三、七	一五、二	一九、六	二三、一	二七、四	三三、六	三二、九	三一、六	二九、四	二三、六	二〇、一	一二、七	三三、六
ペルガモ	仝	一〇、四	一三、〇	一七、三	二三、〇	二八、六	三三、〇	三三、四	三〇、〇	二九、五	二三、一	一六、三	一三、〇	三三、〇
ペロナ	仝	一一、〇	一六、〇	二一、三	二五、四	三〇、八	三五、〇	三五、六	三三、一	三三、九	二六、九	一九、三	一四、〇	三五、六
ファイレンズ	仝	一五、〇	一六、四	二二、三	二二、三	三三、八	三三、七	三六、六	三七、〇	三三、三	三〇、〇	二〇、〇	一六、六	三七、〇
ナープル	仝	一六、三	一九、四	二二、三	二七、三	三〇、九	三三、八	三四、三	三六、六	三三、四	二七、八	二三、一	一八、一	三六、六
コセンザ	仝	一四、六	二一、七	二六、〇	三三、六	三〇、三	三三、四	三六、三	三九、四	三三、〇	二七、〇	一八、八	一七、四	三九、四
ミシナ	仝	一八、九	二三、六	二三、一	二八、六	三〇、四	三三、八	三四、三	三六、五	三四、〇	二九、〇	二五、八	一九、八	三六、五
レクス	仝	一一、八	一三、九	一五、〇	一九、一	二三、三	二七、一	二九、三	三〇、四	二六、七	二一、七	一六、三	一三、五	三〇、四
ローム	仝	一〇、九	一三、八	一四、九	一八、七	二三、三	二七、二	三〇、七	三〇、四	二六、〇	二〇、六	一五、六	一三、一	三〇、七
ミラン	仝	三、一	七、六	一三、一	一七、三	二〇、三	二七、七	三〇、七	二八、八	二三、五	一六、三	九、六	四、七	三〇、七
ナイムス	佛蘭西	一九、三	一八、〇	二四、一	二四、九	三一、三	三五、七	三六、一	三七、〇	三三、三	二五、三	二一、四	二〇、五	三六、六
ブリハス	仝	一九、五	一七、五	二一、〇	二七、〇	三〇、一	三三、三	三五、〇	三四、〇	三四、五	二九、〇	二三、〇	二〇、五	三五、〇
バレンス	仝	一六、〇	一八、四	二三、一	二七、四	三三、〇	三五、二	三六、八	三六、〇	三五、〇	二七、〇	二〇、三	二三、八	三六、八
アビノン	仝	一五、〇	一九、六	二三、八	二六、三	三三、六	三四、六	三八、三	二八、〇	三四、三	二五、六	二一、四	一六、〇	三六、六
ドラヂナン	仝	一六、五	二〇、五	二四、六	二五、三	三〇、六	三三、四	三六、〇	三四、五	三〇、〇	二六、〇	二三、八	二一、〇	三六、〇
モンペリエ	仝	一〇、六	一三、七	一五、九	一八、七	二三、四	二七、一	三一、四	三一、五	二五、六	一九、七	一五、七	一一、八	三一、五
ブレスト	仝	九、九	一一、四	一三、三	一三、七	一七、三	一九、一	二一、三	二二、六	一九、一	一五、一	一三、六	九、八	二二、六
オリー	仝	四、六	八、五	一一、一	二四、七	一九、一	二一、七	二四、五	二三、一	一九、三	一三、八	九、六	五、六	二四、五
上海	支那	九、〇	一四、四	—	三一、〇	三三、〇	三一、八	三八、九	三六、四	三三、〇	二九、〇	二三、一	一八、〇	三八、九
福州	仝	—	—	—	三一、六	三三、七	三六、一	三六、一	三四、七	三三、七	三一、六	二六、九	二四、六	三六、一
北京	仝	四、一	四、五	九、九	一九、〇	二五、三	二九、七	二九、八	二八、四	二四、四	一七、四	八、六	六、一	二九、八
廣東	仝	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
雞籠	仝	一五、五	一六、一	一八、四	二〇、六	二五、五	三〇、〇	三〇、八	二九、六	二八、七	二四、九	二〇、五	一八、九	三〇、八

第七號　寄書

地名	國名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全年
香港	全(英領)	一七,四	一七,六	二〇,五	二四,九	二八,〇	二九,九	三〇,五	二九,九	二八,五	二五,九	二二,〇	一八,四	二〇,五

最低温度

地名	國名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全年
鹿兒島	日本	二,三	二,五	五,九	一一,八	一四,四	一八,八	二三,九	二三,二	二〇,四	一五,三	八,三	三,七	二,三
福岡	全	〇,七	三,三	四,五	九,九	一三,二	一七,五	二一,一	二一,七	一八,三	一一,一	六,三	五,六	〇,七
廣島	全	(−)〇,四	〇,四	二,五	八,一	一三,三	一七,四	二三,〇	二三,九	一八,八	一三,六	六,一	一,五	(−)〇,四
和歌山	全	〇,六	一,〇	三,二	八,九	一三,七	一七,九	二三,五	二三,〇	一九,四	一三,一	七,三	二,八	〇,六
岐阜	全	(−)一,九	(−)一,五	一,四	七,六	一一,五	一六,九	二一,六	二三,六	一八,三	一一,五	五,三	一,〇	(−)一,九
東京	全	(−)二,三	(−)一,一	一,六	七,三	一一,六	一六,六	二〇,九	二一,七	一八,三	一一,四	五,〇	〇,一	(−)二,三
長野	全	(−)六,〇	(−)三,九	(−)〇,七	四,九	八,一	一四,五	一八,八	二〇,五	一六,〇	七,一	一,八	(−)〇,八	(−)六,〇
福島	全	(−)三,九	(−)一,七	一,八	七,四	八,二	一四,五	一八,三	二〇,五	一六,四	七,六	二,一	〇,三	(−)三,九
タラント	伊太利	(−)七,四	(−)五,〇	(−)一,〇	〇,二	四,六	七,三	一一,三	九,九	四,八	(−)〇,四	(−)一,一	(−)六,七	(−)七,四
ベルガモ	全	(−)五,一	(−)三,六	(−)三,八	一,四	五,〇	八,〇	九,六	一〇,八	六,一	二,四	(−)三,八	(−)五,六	(−)五,六
ベロナ	全	(−)六,〇	(−)三,三	(−)一,〇	四,六	五,七	九,四	一四,八	一三,五	九,〇	〇,一	(−)五,四	(−)六,〇	(−)六,〇
フアイレンズ	全	(−)四,三	(−)四,八	(−)一,六	五,三	四,三	九,三	一三,〇	一一,七	八,〇	二,三	(−)三,七	(−)五,七	(−)五,七
ナープル	全	(−)一,五	(−)一,六	〇,五	六,四	四,五	一〇,六	一五,三	一五,四	一三,五	五,六	三,三	(−)三,八	(−)三,八
コセンザ	全	(−)三,八	(−)一,〇	(−)〇,六	五,〇	三,四	一〇,六	一一,〇	一三,三	九,三	四,〇	(−)一,六	(−)五,六	(−)五,六
ミシナ	全	〇,八	三,六	三,八	八,八	九,三	一五,四	一七,三	一七,一	一七,八	一一,一	五,九	一,五	〇,八
レタス	全	七,二	六,六	七,八	一一,一	一三,四	一八,一	二〇,八	二三,二	一九,一	一五,〇	一〇,六	八,三	六,六
ローム	全	三,七	四,六	六,一	九,四	一一,九	一六,四	一九,〇	一八,九	一五,八	一一,六	七,四	五,一	三,七

地名	國名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全年
ミラン	全	(−)一,六	〇,五	三,六	八,三	一三,三	一六,三	一九,四	一八,七	一四,一	九,〇	四,三	〇,三	(−)一,六
ナイムス	佛蘭西	(−)五,四	(−)三,五	(−)二,五	〇,八	三,〇	七,八	八,五	一〇,〇	四,〇	二,四	(−)六,〇	(−)三,六	(−)五,四
ブリハス	全	(−)七,〇	(−)四,五	(−)四,五	〇,一	四,〇	五,〇	一〇,〇	七,五	五,五	(−)一,五	(−)五,〇	(−)八,五	(−)八,五
バレンス	全	(−)一〇,二	(−)五,〇	(−)五,四	〇,〇	三,六	五,六	一〇,五	七,五	三,六	〇,八	(−)三,〇	(−)八,〇	(−)一〇,二
アビノン	全	(−)四,四	(−)三,三	(−)一,四	〇,四	五,六	七,三	三,六	三,〇	五,六	〇,八	(−)三,四	(−)三,三	(−)四,四
ドラヂナン	全	(−)九,〇	(−)三,〇	(−)五,〇	(−)一,五	一,五	七,〇	八,〇	八,五	八,〇	(−)二,〇	(−)六,三	(−)六,六	(−)九,〇
モンペリエ	全	(−)〇,六	三,〇	二,三	五,七	八,五	一三,〇	一五,〇	一四,三	一〇,五	五,九	四,一	〇,一	(−)〇,六
アレスト	全	四,五	四,五	三,八	五,三	七,九	一〇,三	一三,六	一三,六	一〇,九	八,三	六,三	四,八	四,五
バリー	全	(−)〇,七	一,八	一,三	三,八	七,一	一〇,一	一二,三	一二,四	九,四	五,一	三,三	一,三	(−)〇,七
上海	支那	(−)八,三	(−)一,八	—	二,〇	七,六	一四,七	二一,七	一六,八	一三,五	七,五	(−)一,八	(−)八,三	(−)八,三
福州	全	—	—	—	一三,七	一五,五	二〇,五	二四,三	二二,一	一八,三	一三,〇	五,八	一一,一	一一,一
北京	全	(−)三,三	(−)四,三	〇,三	八,六	一四,五	一八,九	二三,三	二〇,八	一五,八	七,五	(−)一,三	(−)一,四	(−)三,三
廣東	全	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
雞籠	全	一三,九	一三,〇	一四,一	一七,一	二一,三	二四,八	二五,五	二五,六	二四,三	二一,四	一七,三	一五,一	一三,九
香港	全(英領)	一三,二	一三,九	一五,八	二〇,六	二三,九	二六,三	二六,八	二六,三	二四,八	二三,四	一七,八	一四,三	一三,二

最高最低温度ノ較差

地名	國名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全年
鹿兒島	日本	九,七	九,五	一〇,三	八,九	九,四	七,八	七,七	八,〇	八,七	九,一	一〇,七	一〇,七	二九,〇
福岡	全	一〇,三	一〇,一	九,一	九,九	九,七	九,五	九,二	九,〇	一〇,六	九,九	一三,〇	九,三	三〇,〇
廣島	全	八,〇	八,六	九,七	九,三	九,七	七,七	七,四	八,六	八,八	九,六	一〇,〇	九,四	三一,五

和歌山全	七.八	七.六	九.四	九.五	九.五	七.七	七.三	八.五	八.三	八.八	八.八	八.七	三〇.九
岐阜全	七.四	八.三	一〇.四	一〇.一	一〇.四	九.一	七.〇	八.八	九.一	一〇.七	一〇.七	九.三	三一.六
東京全	七.四	八.七	一〇.五	九.八	九.三	七.八	七.五	八.〇	七.七	九.〇	一〇.五	一一.一	二八.九
長野全	三.二	六.〇	一〇.九	一三.〇	一三.〇	一一.二	九.一	九.七	九.一	一一.三	一〇.六	八.四	三六.三
福島全	五.九	八.八	九.九	一〇.六	一三.四	一一.〇	七.六	八.七	九.一	一一.三	一一.三	九.一	二九.六
タ子チ 伊太利	二一.一	二〇.三	二〇.六	二一.九	二三.八	二六.三	二一.五	二一.七	二四.六	二三.〇	二一.三	二八.四	四一.〇
ペルガモ全	一五.五	一六.六	二一.〇	二〇.六	二三.六	二五.〇	二三.八	一九.三	二三.四	一九.七	二〇.〇	一七.六	三八.六
ベロナ全	一七.〇	一九.三	二三.三	二〇.八	二五.一	二五.六	二〇.八	一九.六	二三.九	二六.八	二四.六	二〇.〇	四一.六
ファイレンズ全	一九.三	二一.三	二三.八	二五.九	二八.五	二三.四	二三.六	二五.三	三一.五	二〇.八	二二.七	二三.三	四三.七
ナーブル全	一七.七	一七.八	二一.七	二〇.九	二六.四	二一.九	一八.九	二二.三	一八.九	二三.二	二〇.九	二〇.九	三九.四
コセンザ全	一八.四	二三.七	二六.六	一八.六	二六.八	二一.八	二五.三	二七.三	二三.七	二三.〇	二〇.四	二三.〇	四五.〇
ミシナ全	一八.一	二〇.〇	一九.三	一九.八	二一.一	一八.四	一七.一	一九.四	一六.三	一七.九	一九.九	一八.三	三五.七
レタス全	四.六	六.三	七.二	八.〇	八.八	九.〇	八.五	八.二	七.六	六.七	五.七	五.六	二三.八
ローム全	七.二	八.三	八.八	九.三	一〇.四	一〇.八	一一.七	一一.五	一〇.三	九.〇	八.三	七.〇	二七.〇
ミラン全	五.〇	七.一	八.二	九.一	七.九	一一.五	一一.三	一〇.一	九.四	七.二	五.四	四.四	三三.六
ナイムス 佛蘭西	二四.七	二一.五	二六.六	二四.一	二八.三	二七.九	二七.六	二七.〇	二八.三	二三.八	二七.四	二三.一	四四.三
プリハス全	二六.五	二三.〇	二五.五	二六.九	二六.一	二七.二	二五.〇	二六.五	二九.〇	三〇.五	二八.〇	二九.〇	四三.五
パレンス全	二六.三	二三.四	二七.五	二七.四	二九.四	二九.六	二六.三	二八.五	三一.四	二六.三	二三.三	三〇.八	四七.〇
アピノン全	一九.四	二一.八	二五.二	二五.八	二七.〇	二七.四	三六.二	三六.〇	二八.六	二四.八	二四.八	一九.三	四一.〇
ドラザナン全	二五.五	二三.五	二九.六	二六.八	二九.一	二五.四	二八.〇	二六.〇	二三.〇	二八.〇	二九.〇	二七.六	四五.〇

センベリエ全	二二.三	一〇.七	一三.六	一三.〇	一四.五	一五.一	一六.四	一七.三	一五.一	一三.八	一一.六	一一.七	三三.一
ブレスト全	五.九	六.九	八.四	八.四	九.三	八.八	八.七	一〇.〇	八.三	六.九	六.三	五.〇	一八.一
パリー全	五.三	六.七	九.八	一〇.九	一三.〇	一一.六	一三.四	一一.七	九.八	七.七	六.三	四.三	二五.三
上海支那	一七.二	一六.三	—	二九.〇	二五.四	一七.一	一三.二	一九.六	一九.五	二一.五	二四.九	二六.二	四七.一
福州全	—	—	—	一八.九	一七.三	一五.六	一二.八	一三.六	一四.四	一八.九	二一.一	二三.五	三五.〇
北京全	七.四	八.七	九.七	一〇.四	一〇.七	一〇.八	七.五	七.六	八.六	九.九	七.五	七.五	三三.一
廣東全	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
難館全	二.六	三.一	四.三	三.五	四.三	五.二	五.三	四.〇	四.四	三.五	三.三	三.八	一七.九
香港全(英領)	四.三	四.七	四.七	四.三	四.一	三.七	三.七	三.七	三.七	三.五	四.三	四.〇	一七.三

温度百分率

地名 國名 月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
鹿兒島 日本	七四	七一	七三	七九	七八	八四	八二	八二	八〇	七六	七五	七六	七七
福岡全	七八	七六	八〇	八〇	八〇	八一	八一	八一	八一	七九	七七	七八	八〇
廣島全	七五	七二	七四	七六	七四	八一	八一	七七	七六	七八	八〇	七九	七七
和歌山全	六八	六七	六八	七三	七三	七八	七九	七七	七七	七六	七四	七一	七三
岐阜全	七八	七二	七一	七六	七四	七九	八〇	七九	八一	七九	七九	八〇	七七
東京全	六四	六三	六	七七	七八	八二	八四	八二	八二	八一	七六	九七	七五
長野全	八三	七八	七五	七二	六八	七三	七八	七五	七五	七八	七七	八〇	七六
福島全	八三	七九	七七	六八	七二	七六	八一	八六	八四	八一	七五	七九	七八
タ子チ 伊太利	六四	六四	六〇	六六	五六	五八	五八	六二	六六	六七	七〇	六七	六三

ベルガモ	全	七六	七九	六七	六八	五九	六〇	五八	六五	七〇	七五	七七	八〇	七〇
ベロナ	全	七六	七〇	五九	六二	五三	五六	五一	五四	六〇	七一	七一	七九	六三
ファイレンズ	全	七三	七〇	六三	六五	五七	五四	四七	五四	六〇	七〇	七二	七五	六三
ナーブル	全	六九	七〇	六六	七一	六四	六五	六一	六一	六五	六七	六七	七二	六七
コセンザ	全	七六	七四	七三	七三	七二	七〇	六九	六七	六六	六八	七二	七五	七一
ミシナ	全	七五	七一	六七	六五	六九	六〇	六一	六二	六三	六七	七一	六九	六七
レグス	全	七七	七二	六七	六三	六〇	五六	五二	五三	六一	六九	七四	七六	六五
ローム	全	七四	七〇	六六	六八	六三	六〇	五三	五七	六一	七一	七四	七六	六六
ミラン	全	八八	八一	六九	六七	五八	五七	五五	六一	六六	七八	八五	八八	七一
ナイムス	佛蘭西	七九	七九	七三	七四	七〇	六三	六五	六四	七三	七九	七九	七七	七二
プリバス	全	六七	七四	六八	六六	六二	六〇	五二	五四	六七	七五	八一	八一	六六
バレンス	全	七五	七八	六九	七〇	七〇	七三	六五	七九	七五	八一	八三	—	七五
アビノン	全	七四	七三	六三	七〇	六七	六五	六二	六六	七七	七八	七八	七四	七〇
ドラヂナン	全	七六	七六	七三	七三	七〇	六八	六五	六一	七一	七八	八二	七六	七三
センベリエ	全	八四	七九	七六	七九	七七	七五	六九	六九	八〇	八三	七六	六九	七六
ブレスト	全	九一	八九	八一	八一	八〇	八四	八四	八三	八七	八八	八八	八八	八五
パリー	全	八九	八四	七四	六九	六九	七三	七一	七三	八四	八六	八七	八九	七九
上海	支那	八五	八四	七一	七一	七四	八九	八三	八三	八四	七七	七八	八〇	八〇
廣州	全	—	—	—	八五	八〇	七七	七八	七六	八七	七一	六九	七三	—
北京	全	五八	五九	五四	四九	五一	六一	七六	七六	六八	六〇	五八	五八	六一
廣東	全	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
雞籠	全	八八	八九	九〇	八二	—	—	—	—	八七	八一	七九	七九	—
香港	全(英領)	七三	七七	八〇	八三	八二	八一	七九	七七	七九	七三	七六	七六	七八

雨雪量粍

粍　一粍ノ水量ハ一坪ノ地ニ一升八合三勺ニ當ル

地名	國名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	總量
鹿兒島	日本	八三,五	五三,七	一三三,三	二三九,五	二三五,一	四[illegible],一	二六三,四	一九七,三	一九五,四	一二八,九	九九,三	八七,〇	二一五三,五
福岡	全	二一六,三	一〇六,九	一六八,三	二一五,八	二三一,四	一九〇,四	四〇三,三	六八,三	五七,三	一一三,七	六一,九	一九五,六	一九三〇,八
廣島	全	四一,三	三六,〇	七八,〇	二〇九,〇	一八〇,六	二八五,九	二三三,三	八六,六	一八九,九	一二〇,〇	一一〇,〇	四七,一	一六三四,六
和歌山	全	三六,三	三六,〇	九一,三	一八一,八	一二五,八	二四七,五	一四六,八	九四,七	一五五,〇	一八三,三	一三五,七	五三,八	一四七六,九
岐阜	全	六九,六	三五,八	九六,九	二七,三	二〇三,四	二八四,七	二五三,七	一六〇,一	一八九,六	一四三,四	一三一,〇	六八,七	一九六六,二
東京	全	四五,六	三六,六	八五,二	一一九,五	一四五,七	一七四,〇	一四三,六	九一,八	一六〇,一	二〇五,五	一一五,〇	四一,九	一三五四,五
長野	全	三六,四	三六,六	五三,八	一三〇,六	六六,五	九三,二	一五三,三	一〇四,八	六三,七	九六,八	五三,一	五八,七	八四四,四
福島	全	三二,六	四六,九	九八,二	四七,一	一四三,三	一四〇,五	一五九,七	四二五,〇	二〇五,九	一六四,一	五九,八	六四,三	一六三一,三
タ子チ	伊太利	四九,七	四〇,五	二七,九	三二一,三	六七,五	一〇四,〇	六四,五	九九,一	一三八,一	一三三,八	一〇八,六	五五,三	一〇五九,三
ベルガモ	全	八〇,八	五五,五	四六,〇	一一〇,六	一〇三,八	一三〇,七	一〇七,四	一〇四,九	一〇五,六	一三五,四	二〇九,九	九七,〇	一〇九七,六
ベロナ	全	四九,五	二六,五	八五,一	一〇三,三	六一,〇	一〇七,〇	三五,一	七〇,八	七九,六	八七,八	七〇,七	六九,九	八四六,三
ファイレンズ	全	七一,三	二三,四	三三,七	七六,七	六五,三	八四,三	二三,七	七三,三	七一,二	七一,九	七三,九	六四,六	七三二,一
ナーブル	全	一一八,四	七九,一	六一,五	一一六,一	五五,七	三六,四	一一,四	五七,七	四三,九	一二〇,〇	一〇四,一	一三六,一	九二九,五
コセンザ	全	一六九,八	一一四,九	一〇一,三	一二三,六	四七,八	五九,六	一三,九	三六,七	六三,八	一二〇,五	一三八,七	一四四,八	一一三四,三
ミシナ	全	二六三,三	一〇三,一	七一,八	三三,六	三三,七	二九,五	一三,七	三九,六	三一,三	一三二,八	一四五,六	一〇三,六	九九四,六

レグス全	七、六	五、四	三、五	五、〇	四、三	二、四	一、一	三	四、四	一〇、〇	一〇、三	八、六	六五、三
ローム全	一三、三	五、四	五、八	九、三	五、五	五、二	一、一	三、六	五、〇	一一、四	六、四	一一、四	八三、四
ミラン全	八、五	四、七	八、六	一六、〇	九、七	七、〇	六、三	七、七	六、八	一〇、四	一一、六	九、六	一二一、四
ナイムス佛蘭西	三七、八	一六、六	一三、〇	六四、九	四三、一	一三、一	三三、七	一四、〇	六三、九	三六、五	六五、六	三三、三	四三三、四
プリパス全	七三、三	四五、六	一〇、七	七五、五	九九、四	五三、〇	六三、三	一六、六	九四、七	一三八、八	一三三、一	六一、三	九六三、三
パレンス全	四六、一	五五、三	三、〇	八六、一	八五、七	五〇、一	六〇、八	七九、三	八〇、三	一四六、一	八八、三	五一、三	八四三、三
アビノン全	三三、四	二〇、〇	二一、七	八六、七	六八、〇	五九、三	三三、五	三七、六	一〇八、三	一四三、一	八三、一	二〇、〇	七〇一、七
ドラギナン全	七〇、六	六七、三	四九、三	一一八、九	三七、六	九〇、三	三九、五	四三、七	八八、〇	二〇九、三	一〇四、一	四三、三	九五〇、六
モンペリエ全	一四、一	三三、〇	二八、七	八、八	五、五	三、〇	一、七	三、〇	五、五	五、〇	一、五	九、九	一一七、七
プレスト全	一一、九	一六、五	四、〇	一一、九	七、七	一三、一	五、六	五、四	九、八	一〇、一	一六、一	一九、六	一三〇、九
パリー全	三、三	三、六	三、一	三、五	五、三	四、七	四、四	五、五	七、〇	五、六	五、三	五、一	五六、五
上海支那	七三、〇	六〇、〇	一〇六、〇	一三三、〇	一三三、〇	一五一、〇	一一六、〇	一四七、〇	一五三、〇	六五、〇	九四、〇	一三、〇	一二五三、〇
福州全	—	—	—	六〇、〇	三五一、〇	五六、〇	一三五、〇	—	—	—	—	—	—
北京全	三	五	七	一、五	四、三	八、九	三三、七	一五、三	七、三	一、七	九	三	六五、三
廣東全	一、七	四、三	五、五	一四、四	三〇、一	二八、三	一九、七	三五、三	二七、七	一四、〇	六、三	三、五	一七九、五
雞籠全	五七、三	三〇、一	二七、三	二九、三	三〇、三	一一、三	九、五	二一、九	三八、四	二〇、六	一三、〇	一六、四	三〇五、〇
香港全(英領)	一、〇	三、七	六、五	九、三	二四、一	四三、六	三六、〇	三一、八	三五、四	一四、四	七、四	一、六	二二四、八

以上は蠶業に係る氣候の概要に御座候其他一般に於ける調査は目下着手中に付追て詳報を怠らざるべし

◎全世界蠶業實况報告

大日本蠶絲會養成會員　今西直次郎

○西班牙

明治廿三年西班牙の收繭額は前年よりも著しく超過し即ち明治廿二年の産額七十四萬五「キログラム」に對する九十五萬三千「キログラム」にして之を地方に應して細別すれは左の如し

ワランス州及アラゴン	三五〇、〇〇〇	ミユルシ及テリユエラノ平原	五二〇、〇〇〇
シエラセギエラ	二〇、〇〇〇	アルメリヤ州及グレナード	四五、〇〇〇
エストラマヂユール	一八、〇〇〇	合計	九五三、〇〇〇

此の如き産額の増加は獨りミユルシ州の占有に歸するものゝ如し今其の潤澤の因て來りし所以を尋ぬれは要するに氣候順良にして桑業又未曾有の繁を爲し就中蠶種の精良にして佛國三四の製種家之を供給して絶へす同國に住し此れか販賣の特權を有するに外ならす

然れとも尚他に理由のあるありて之れが收繭增額を助けたるものあり抑もミユルシ州たる熾んに魚釣糸を製造する塲所に屬し目下世界中其の特權を恣にするの勢ひあり故に年々之に用ゆる蠶量は少くも十萬乃至十二萬「キログラム」を超えたり然るに明治廿三年適々不景氣に際しミユルシ州貿易商館の倉庫は釣糸の在荷著るしく堆積し其の遊滯云はん方なく延て魚釣糸の製造を減せしめ漸く凡そ蠶量一萬「キログラム」を用ゐたる狀况なりしされは釣糸減額の差は則ち去て製糸の産額を增出したる次第なり」ワランス州の養蠶は蠶種粗惡にして夥しく微粒子毒を發現し爲に收繭の結果は前年に優るとなし然る

に全州桑葉の非常に饒多にして此病毒に遭遇したるは誠に遺憾の至りなりと謂ふべし

西班牙收繭の全額九十五萬三千「キログラム」を以て生糸の産額を豫定するに生糸一「キログラム」に付き繭十一「キログラム」半を用ゆるものとせば其總額凡そ八萬三千「キログラム」を産すべし之に對する前三ヶ年の産額は左の如し

明治廿二年	六五、〇〇〇	仝　廿一年	八三、〇〇〇
仝　廿　年	七八、〇〇〇		

生繭平均價格は左の如し

	明治廿三年	明治廿二年
ミヨルヒ州	三、五〇乃至三、五〇	二、九五
クラヌス州	四、七五乃至四、八〇	三、三五

○澳國匈牙利

南チロール府（トラント地方）

同地方桑樹の栽培は未だ曾て發達の樣に就かざりしが幾近其形狀を一變し桑樹の繁殖頗る著しく桑苗の取賣類りに行はれ其の勢ひ實に盛なり若し農家の朽桑を拔去り新苗を養育するの盛況果して今日の如くなれば將來此の地方の蠶業は益々繁榮に赴くことを卜知するに足るべし

明治廿三年收繭の結果は前年よりも勝しく減少したりと雖ども著しき變動と云ふべからず其の産額は明治廿二年百八十萬「キログラム」に對する大凡百七十萬「キログラム」に比して之れを内譯すれば青白繭百「キログラム」當繭及掛合繭七十「キログラム」なり

各種成繭の比例は青白繭百分の六十黄繭百分の三十及掛合繭百分の十にして青白種の漸く減少に傾きたるは數年來黄繭及掛合繭の增加せるに由るなるべし

收繭の成額は既に明治廿二年中數多の村落に於て侵害を蒙りたる如く是れ皆一に白張蠶の發現せるに歸せずんば如ちず又實却したる繭量も少ななり

ロウエルド商業會議所は左の如く黄繭及青白繭の平均價格を定めたり

黄繭　一、六〇（三、八三）但し同功繭を含む　青白繭　一、二八（三、〇七）仝

是れ迄此の價格を支拂ふに宇は金貨宇は紙幣を用ゐ來りしか將來繭買入規則を發して澳國紙幣のみを流用するとなるべし

フリウール州（ゴリッツ及びグラヂスカ）

ゴリッツ府農事試驗所長ボール氏の調査に依れば澳國フリウール州の收繭額は前年の六十一萬千七百「キログラム」に對する四十二萬二千三百「キログラム」なり此の減額の原因たる主もに「フラシュリ」病と自蠶蠶の少分とに依て起り而して此の二種の病毒蠶中寒冷濕氣の爲に蔓延したるものなり

ゴリッツ府市場の繭價は一「フロラン」九四（四「フラン」七〇）にして而して明治廿二年の平均價格は四「フラン」一〇乃至四「フラン」一五なりき

イストリア州及ダルマツ州

澳國海岸の黄繭は好結果を得てイストリア及びダルマツ二州の收繭額は前年よりも增加せりイストリ州

の產額は十萬六千七百「キログラム」にして而してガルマシ州の產額は二萬五千「キログラム」都合十三萬一千七百「キログラム」なり

匈牙利クロアシ

明治廿三年維也納府農林博覽會開設の時に當りポールドベセンデル氏は明治十三年より同廿三年に至る十ヶ年間濠國蠶絲業の改良進歩に關はる極めて緊要なる書册を公示せり今茲に之を抄錄して其の大勢を知らしめんとす明治十三年農商務省は再ひスセクスザルドの養蠶監督局を組織して匈牙利蠶業の勸奬と擴張とを謀らしめたり

當時全國の收繭額は二千乃至三千「キログラム」に過ぎざりしが明治十八年には十七萬六千「キログラム」に達し而して明治廿三年には百萬「キログラム」の多きに及べり

去る五ヶ年間蠶業の著々歩々に上進したるの狀況は左表を見て之を知るべし但し蠶種一「オンス」は二十五「グラム」を以てす

	養蠶戶數	養蠶家族數	蠶種量數	生繭額	一「ランス」收繭高
明治十九年	八八一	一七、七八二	二五七、六五〇	二二、二二	
仝　二十年	一、〇四八	二八、一四五	四五一、五一一	三〇二	
仝　廿一年	一、三八九	四〇、四二三	七〇三、四八八	二八、九	
仝　廿二年	一、六九三	五一、一二二	二九八、六九	二、七三	
仝　廿三年	一、九四二	六六、五二五	三九、九四〇	二六、	

帝國政府は毎年パヴタソア及びニュザッツの公立製絲場二ヶ所に於て製絲用繭買入費を下付せられ去る五ヶ年間其の買入費と比較すれは左の如し

明治十九年	二七一、八七七ルヂ	仝　二十年	四七四、六五〇ルヂ
仝　廿一年	七二四、二六一	仝　廿二年	七九二、〇二三
仝　廿三年	一、〇一六、二〇六		

パヴタソア及びニュザッツの製絲場開設以來如何に其の業績歩したるかは左表に就て之を察知すべし

		製絲用繭高	工女數	製糸用繭高
パヴタソア	明治十五年	三〇〇斤	八〇人	一、一七九斤
仝	廿三年		二〇六	五、三八五
ニュザッツ	明治十八年	一四〇	二八二	七、二〇〇
仝	廿三年	一八〇	三八七	九、五五五

匈牙利公立製絲場二ヶ所に於て製造したる生絲は二年以來專ら里昂に輸送し來れり而して此の兩製絲場に使用する繭は甚だ僅少にして現に明治廿三年の如き漸く收繭高五分の一に過ぎずして其の過半は伊太利未濟分のフリウール州に販賣せしに同地の製絲家は其の繭の佳品なるを賞賛せり之を要するに明治廿三年濠國匈牙利の收繭額は左の如し

	黃繭	白繭	合計
海ヂローム府	一、〇〇〇、〇〇〇斤	一七〇、〇〇〇斤	一、一七〇、〇〇〇斤
フリウール州		四二、三〇〇	四二、三〇〇
イストリヤ州及ダルマシ州		一三、一七〇	一三、一七〇
匈牙利クロアシ	一、〇〇四、〇〇〇	一、〇〇四、〇〇〇	一、〇〇四、〇〇〇
仝　計	一、〇〇〇、〇〇〇	三、一九八、〇〇〇	三、一九八、〇〇〇
右に對する明治廿二年の收繭額は左の如し			
仝　計	一、二六一、〇〇〇	二、〇七五、〇〇〇	三、三三六、〇〇〇

生絲二「キログラム」を製造するに黄繭十一「キログラム」半青白繭十四「キログラム」を用ゆるものとせは明治廿三年の收繭額三百二十九萬八千「キログラム」は凡そ二十七萬一千「キログラム」の生絲を製産し而して其内譯は青白種生絲七萬一千「キログラム」に対して黄繭種生絲二十萬「キログラム」なり之に對する前四ヶ年の生絲産額を比較すれは左の如し

明治十九年	二一七、〇〇〇	仝　二十年	二六四、〇〇〇
仝　廿一年	三〇七、〇〇〇	仝　廿二年	二六七、〇〇〇

○東歐

アナトリ州（ブルース）

チトマブ國財政の困難は自ら蠶業を發達せしめんとする企望に障碍を及ぼし且つ鋭意に誘業を勸奬する有爲活潑の人にをしと雖とも幾近黄蠶は年を追ふて進歩せり思ふに此の進歩を長く繼續し能く新桑を栽殖せしむることを忘ずんは千八百五十五年（安政二年）以前の産額を恢回するに至るべし蓋し此の歳は蠶疫流行の兆候を呈はしたる時にして年々平均四十五萬「キログラム」の生絲を産出し即ち現今産額の一倍なりき

爰に最も世人の注意を惹起すべきとは「バクダード」と名くる自國産白繭種を旅復したるにありて其進歩殷々乎として遠なり已に明治廿三年の如きは蠶種掃立總數の内「バクダード」種は其三分と二を占めり然るに不幸にも此の成繭は外觀上全美を缺ひ其の形大なりと雖とも黄繭よりも絲量少くして解舒又容易ならず從て其の工費を要すること多きのみならず染付上に於ける製絲の品位は黄繭種の生絲より

も劣て宜しからざる所あり尤も蠶疫流行す前に在ては其狀斯の如くならざりしも爾來其の品種を失墜したれば宜しく之を最初の品位に回復せしむることに注意せざる可らず

去る明治廿三年掃立たる蠶種の全量を類別すれは大畧左の如し

自國「バグダード」白種	百分の六五	
日本青白復製種（一名「キアル」）	同　五	
佛國黄繭復製種	同　一〇	
佛國輸入黄繭種	同　二〇	

明治廿三年四月の氣候は前年と同樣に順良にして蠶見の發生には頗る適當したり其の暖氣の爲に白彊蠶「フクシュリー」病等の發現を防止し以て無事に蛻皮を全了せり然るに桑葉は不幸にして剤澤ならず其の減少百分の十分乃至十五に及びて之れが爲め數多の養蠶場は桑葉の欠乏を訴へ尋て蠶の終齡に臨んで飢餓に苦めり因て吾人の觀察する所によれは成繭歩合の宜しからざりしは以上の桑葉の欠乏に歸せざるを得ず

桑葉の欠乏翔如くなるにも拘らず明治廿三年の收繭額は殆んと前年と同樣なり即ち明治廿二年の二百三十五萬「キログラム」に對する二百三十四萬三千「キログラム」なり今之を地方に應して區別すれは左の如し

ブルス及近傍	八八四、〇〇〇	バザールキュラム及ザニエムレク	四三二、〇〇〇
イスミス及近傍	六二八、〇〇〇	ビレドヂク及近傍	三〇八、〇〇〇
バンデルマ、エルヴァタ其他	九一、〇〇〇	合計	二、三四三、〇〇〇

此の生繭高二百三十四萬三千「キログラム」を繰種類に應して區別すれば左の如し

自國「バグダード」白種繭	一、五九三、〇〇〇 百分ノ六八
黄繭	七〇三、〇〇〇 仝 三〇
日本青白種繭	四七、〇〇〇 仝 二

繭の平均價格は左の如し但し全切繭百分の三乃至四及ひ粗繭百分の二乃至三を含有せり

黄繭	一五乃至一八（ピアストル）（三、一〇乃至三、七五）
バグダード種	一七乃至二〇（三、五五乃至四、一五）
青白繭	一二乃至一三（二、五〇乃至二、七〇）

「バグダード」種の白繭十二「キログラム」乃至十四「キログラム」黄繭十三「キログラム」乃至十四「キログラム」青白繭十五「キログラム」乃至十七「キログラム」を以て生絲一「キログラム」を製造するものとせは其の全額は明治廿一年の十八萬五千「キログラム」に對する十八萬一千「キログラム」なり之を類別すれは左の如し

「バグダード」種生絲	二二、五三〇
黄繭種生絲	五二、〇六〇
青白種生絲	二、九一〇
合計	一八七、五〇〇

繭種用「バグダード」種生繭八二、〇〇〇基を生絲に換算し取除くべき高　六、五〇〇

差引
合計　一八一、〇〇〇

明治廿三年十二月三十一日迄繰製したる生絲の總額は十一万四千「キログラム」にして之を輸出仕向先きに應して區別すれは左の如し

輸出仕向先	生絲輸出高	百分ノ
里昂	五一、三〇〇	四五
巴里	三一、九二〇	二八
英國	二〇、五二〇	一八
濠國	五、七〇〇	七
亞細亞	三、四二〇	三
瑞西	一、一四〇	一
合計	一一四、〇〇〇	

其の他千繭一万七千「キログラム」（即ち生繭にして六万九千「キログラム」に相當するもの）は伊太利及佛國に輸出せり但し其の種類殆んど皆「バグダード」種なり

シリー國（亞細亞土耳其）

明治廿三年の收繭類は前年より多大約七十萬九千五百九十「ヂャック」（一「ヂャック」は一「キログラム」に二百八十三「グラム」）を超過し全額三百六十一万三千七百七十七「ヂャック」なり之に對する前三ヶ年の產額を比較すれは左の如し

明治廿二年	二、九〇四、一八〇〇	二、〇六七、〇〇〇
仝　廿　年	二、九一六、七〇〇	仝　廿一年

ベイルーツノ平店ニ於テ蠶種ヲ掃立てたる日より三月十五日より二十日の間にして之を前年に比すれは八日間早し獨りプートリパンにのみ四月上旬に之を掃立てたり

蠶種商人は前年夥しく賣品の革偏を爲し莫大の損毛を蒙りたるを以て明治廿三年に至ては甚しく其の分量を減少せり故に蠶種の價格は一箱に付凡「フラン」に上騰即ち前年の一倍に當れり

敢繭の結果殊に其の宜しきを得たるは主も に氣候の和順にして養蠶の進行を完からしめたると蠶見の飼養に適せる桑葉の充實且つ鮮美なるに歸せざるべからず

此の國に通常飼養する蠶種は大抵佛國コルス縣及ひアール縣に生產するものなり

敢繭總額三百六十一万三千七百七十「チック」(四百六十三万七千「キログラム」)より蠶種製造用の繭凡そ十四万五千「キログラム」を除くときは製絲用の生繭高四百四十九万二千「キログラム」となるべし此繭平均十一「キログラム」宇を以て生絲一「キログラム」を製造するものとせば其の全產額は凡そ三十九萬「キログラム」なり之に對する前二ヶ年の產額は左の如し

明治廿二年	二三四、〇〇〇	仝　廿一年　二三一、〇〇〇

蠶種用繭高九萬「チック」の外に四萬五千「チック」はダマース府(シリー國)用の爲に亞列比に於て製絲而して餘は二十萬「チック」輸出の爲め干繭として之を貯藏せり

黃繭の相場は初め一「チック」に付二十三乃至二十四「ピヤストル」なりしが暫くにして二十五「ピヤストル」及ひ二十六「ピヤストル」に達し遂に二十七「ピヤストル」宇に上騰せり即ち「キログラム」に付き四「フラン」乃至四「フラン」に五に當るなり

明治廿三年此の諸州に收獲せる收額は前年に比して著しき差異を見ず茲に諸州の干繭高を擧くれは左の如し

サロニク及マセドアーヌ	二五〇、〇〇〇	ウチロ及テサリ	二二〇、〇〇〇
アンドリノープル及ルメリ	一一〇、〇〇〇	合計	四八〇、〇〇〇

生絲一「キログラム」を製造するに干繭四「キログラム」を用ひるものとせは繭全額四十八萬「キログラム」は凡そ十二「キログラム」の生絲となるべし然れとも此の收繭額は大抵干繭して輸出せり

希臘

希臘の收繭は年々殆んと同一の高にして生繭六九三十萬「キログラム」を產出す

十九世紀前半期間(享和元年より嘉永三年の頃迄)此の國の蠶業大に隆盛を極め收繭額殆んと二百萬「キログラム」生絲十五萬「キログラム」に達せり蠶病流行以來此の產額は漸次減少し數年前よりソシニー及びラセデモーヌの二州に產出する生絲の高は一萬八千「キログラム」に過きず而して其の宇額は內地の需用に供し其の他の宇額は大抵干繭して佛國馬耳塞に輸出せり

コーカズ

コーカズはユリザベクポール　ベクーザカタール　クータイス　チイフリース　エクリンカルス　ダゲスタ

ンの八州に政府を設置して而して其の人民は多少蠶業を營みカスピヤン海の沿岸より黑海に至る迄又トリエスタより コーカス山麓に至る迄悉て居住する人民は大小を論せず此の業に從事す

各州中府施の最も盛大なるはユリヂベツポール州にして其の支廳はヌカーアグダーシユの諸郡に設けあり

抑もヌヤー郡はコーカス全國中養蠶の最大本場にして千八百五十八年（安政五年）より千八百六十五年（慶應元年）迄は嬢んに蠶種を佛國及ひ伊太利に供給せり既に千八百六十三年（文久三年）一ヶ年のみにして該郡より蠶種を輸出したる高は二万五千乃至三万「キログラム」に至れり

千八百五十年（嘉永三年）より千八百六十三年（文久三年）迄トランスコーカシは毎年五十五萬乃至六十萬「プード」（九百萬乃至九百八十萬「キログラム」）の生繭を產し即ち凡そ三萬「プード」（四十九萬「キログラム」）の生絲を生せり此の收穫實に潤澤にして繭質又最も佳好なりき不幸にして養蠶衰疲し蠶種の製造粗惡に流れ忽ち病毒を蔓延せしめ最重の物產地を拂ふに至れり千八百六十四年（元治元年）及び千八百六十五年（慶應元年）の頃より收繭の高を減じ而して千八百七十五年（明治八年）より千八百八十八年（明治十一年）に至る迄佛人レヘリセー氏は佛國蠶種を增殖せしむるの目的を以て充分盡力せしかども黃繭種の如きは殆んど全然其の跡を絕つに至れり

我佛國生絲商組合が得たる所の概要報告によれば明治廿二年コーカスの收繭は前年よりも百分の十乃至百分の十五を超過し而して生繭全額は凡そ十七萬「プード」即ち二百七十八萬「キログラム」なり此の繭額二百七十八萬「キログラム」を製絲用の爲め精撰すれば屑繭凡そ百分の二十乃至百分の二十五を生して生繭正味二百十萬「キログラム」に減せり

絲量の少き其の少きを以て此の繭額二百十萬「キログラム」より生ずる生絲は八萬「キログラム」に過ぎざるべし其の產額四分の三はセスコー及び其の他に輸出して殘餘は內地に需用せり

生繭の價格は左の如し但し全功繭及粗繭を含有せり

明治廿三年

日本極青白繭　一〇乃至一一フラン（一プード二封）　全

伊佛諸黃繭　一五乃至十七　全

明治廿二年

九乃至一〇フラン

一三乃至十五

○東洋

支那

上海輸出高

輸出高

英國　五、六八二（一俵は四七基なり）

佛國及大陸　四一、二五四

合衆國　五、四三一

其他諸港　五、四八三

合計　五七、八五〇

以上の俵數を「キログラム」に換算すれは二百七十二万「キログラム」となり又之に對する前數年度の輸出高を比較すれは左の如し

仕向先	明治十九年度	明治二十年度	明治廿一年度	明治廿二年度
英國	四、八四四四	五、四九〇	五、五六一	四、一八九
佛國及大陸	三七、二六二	三、八四九九	三五、四六〇	四五、〇九三
合衆國	六、〇二一	三、七四一	四、九〇六	七、二九九
其他諸港	二、六六六	四、五九四	四、一八六	五、三〇五
合計	五〇、七九三	五二、三二四	五〇、一一三	六、一八八六
基數	二、三八七、〇〇〇	二、四五九、〇〇〇	二、三五六、〇〇〇	二、九、〇〇〇
桂數絲	一〇、六五〇	六、五八三	八、五〇〇	一、二、一〇〇

廣東輸出高

明治廿三年六月一日より同廿四年五月卅一日迄廣東より輸出したる生絲高を其の仕向先に應して區別すれは左の如し

仕向先	輸出高
佛國及大陸	一三、五五八
英國	三、三四六
合衆國	五、一六三
合計	二二、〇六七
印度	四、三七五

一俵は正味四十七「キログラム」なるを以て明治廿三年度の生絲輸出高を「キログラム」に換算すれは凡

そ百二十四万三千「キログラム」となるべし之に對する前數年度の輸出高を比較すれは左の如し

仕向先	明治十九年度	明治二十年度	明治廿一年度	明治廿二年度
佛國及大陸	一五、四〇六	一三、九〇五	七、三五九	一六、〇〇七
英國	四、一三〇	一一、二五六	一、二六五	二、九八二
米國	五、五七〇	六、一二〇	五、一二〇	九、一二〇
印度ボンベイ	二、九五〇	六、〇〇〇	二、一、九〇〇	四、四七二
基數	一、三五七、〇〇〇	一、四一、〇〇〇	七七五、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇

日本

横濱輸出高

明治廿三年七月一日より同廿四年六月三十日迄横濱より輸出したる生絲の高は三万三千六百三十俵なり其仕向先に應して區別すれは左の如し

仕向先	輸出高
英國	六一八
佛國及大陸	一四、六七二
米國	一八、三四〇
合計	三三、六三〇

一俵平均六十「キログラム」なるを以て以上の俵數を「キログラム」に換算すれは二百一万八千「キログラム」となるべし之に對する前數年度の輸出高を比較すれは左の如し

仕向先	明治十九年度	明治二十年度	明治廿一年度	明治廿二年度
英國	五一八	二、四一一	二、七七九	二〇四
佛國及大陸	一、八七二	一六、二二五	一七、九九一	一四、八三一
米國	一四〇〇〇	二〇、九六〇	一九、九一六	二〇、三七〇
合計	二六、三九〇	三九、五九六	四〇、六七六	三五、四〇六
基數	一、四七八、〇〇〇	二、二一七、〇〇〇	二、四四一、〇〇〇	二、一二五、〇〇〇

東印度

孟加拉輸出高

明治廿三年一月一日より同年十二月三十一日迄カルキュタより輸出したる生絲の高を仕向先に應して細別すれは左の如し

仕向先	英國	佛國	伊太利	合計
一月	七八	二〇二	五五	三三五
二月	二四五	一五〇	一〇七	五〇二
三月	一八〇	一二九	八六	三九五
四月	一〇二	一三八	六八	三〇八
五月	一	一五八	七六	二三五
六月	七二	九三	四八	二一三
七月	二三	一三一	一五七	三一一
八月	四九	八九	八四	二二二
九月	九五	一二六	一七三	三九四
十月	二二	五三	一三三	二〇八
十一月	七一	八	七九	
十二月	六七	一一	一二一	
合計	一、四〇七	九九五	三、三三三	
	六四			
	九三一			

一俵半均六十七キログラムとすれは以上生絲の總類三千三百三十三俵は即ち二十二万四千「キログラム」となるへし之に對する前年の輸出高は左の如し

明治廿二年　基數　二一〇、〇〇〇

三、一三四

○世界各國生絲產出及輸出高要略

明治十九年

歐洲		全廿年	全廿一年	全廿二年	全廿三年
伊國四		七一七、〇〇〇	七九八、〇〇〇	六一八、〇〇〇	六五〇、〇〇〇
伊大利		三、一八八、〇〇〇	三、五六六、〇〇〇	二、八八〇、〇〇〇	三、四四三、〇〇〇
西班牙		五二、〇〇〇	七八、〇〇〇	六五、〇〇〇	八三、〇〇〇
清國印度		二一七、〇〇〇	二六四、〇〇〇	二六七、〇〇〇	二七、〇〇〇
合計	東歐	四、一四四、〇〇〇	四、五三五、〇〇〇	四、七五四、〇〇〇	四、四四七、〇〇〇
アナトリ（アルース其他）		二〇六、〇〇〇	一八八、〇〇〇	一七〇、〇〇〇	一八五、〇〇〇
サロニカ、ウサロ		一、一五、〇〇〇	一、五五、〇〇〇	一二〇、〇〇〇	一一〇、〇〇〇
アンドリノープル		一二三、〇〇〇	三四〇、〇〇〇	二三一、〇〇〇	三四〇、〇〇〇
ビリー		二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一八、〇〇〇	一八、〇〇〇
希臘		五八四、〇〇〇	六八三、〇〇〇	五三九、〇〇〇	六三七、〇〇〇
合計					七〇九、〇〇〇

中亞細亞	九三〇〇〇	五五〇〇〇	五〇〇〇〇	七〇〇〇	八〇〇〇
コーカズ					
東洋	二三八七〇〇〇	二一四五九〇〇〇	二一三五五〇〇〇	二一九一〇〇〇	二一七二〇〇〇
支那（上海輸出）	一二三五七〇〇〇	一一四一一〇〇〇	七七五〇〇〇	一一六〇〇〇〇	一一四四三〇〇〇
仝（香港輸出）	一一四七八〇〇〇	二一二一七〇〇〇	二一四四一〇〇〇	二一一二五〇〇〇	二一〇一八〇〇〇
日本（輸出）	五二一八〇〇〇	五二一八〇〇〇	六七四〇〇〇	二一〇〇〇〇	二一一四〇〇〇
印度（ボンベー輸出）	五七四三〇〇〇	六六二一五〇〇〇	六二四五〇〇〇	六八四五〇〇〇	六二〇五〇〇〇
合計	一〇五五四〇〇〇	一一一八八八〇〇〇	一一五八八〇〇〇	一一三八二〇〇〇	一一四四一〇〇〇
總計					

備考

コーカスの生絲產額は內地に需用し又は露國に輸出したる高を含めり

東洋生絲の輸出額中米國及び印度ボンベーに輸出したる高を含めり

（完）

●統計

◎明治初年より生絲輸出累年統計

本邦生糸輸出の開始は安政六年七月横濱開港以來にして其當時は微々たるものなりしも追々增加して明治初年には生絲屑物の輸出斤量百四十一萬千七十六斤價額六百五十萬六千二百三十六圓となり其後海外の貿易一層頻繁を極め明治政府の設置と共に大に奬勵し漸次發達增加して昨二十四年の如きは斤量に八百六十一萬八千三百六斤價額に三千百八十八萬千六百三十四圓其他尙近來輸出に係る羽二重「ハンカチーフ」の如き絹織物の原料を加ふれ仮令殆と四千萬圓の巨額にして其輸出先即ち生糸は米國英國、佛國、英國、支那、伊國、西班牙、瑞典、加拿陀、香港に貿易生絲は濠國、支那、佛國、英國、瑞典、印度に又屑絲は濠國、支那、佛國、香港、伊國、瑞典に玉絲は印度、佛國、瑞典等にして之が輸出を爲すものは晉外商に在て本邦人の之を取扱ふ者極て少なく本邦人が生絲を海外に直輸せしは漸く明治九年米國に送りしを以て初とし佛國に直輸せしは明治十三年を以て初とす當時は貿易商會、同伸會社、扶桑商會あり直輸を專業とせしが今日は唯一の同伸會社あるのみ其他には亦一の直輸會社の存するなく輸出の十分の九強は外國商館に賣渡し外人より諸國に輸出するものにして此點に於ては實に遺憾と云ふべきなり

明治初年ヨリ蠶絲累年輸出表

年次	生絲		屑糸絲		屑絲		玉絲		計	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
明治元年	二一二〇〇〇	六二一六〇〇〇	六二一六〇〇〇	六二一六〇〇〇	一四六〇〇〇	二四六〇〇〇	一四一〇〇〇	一四一〇〇〇	二一四一〇〇〇	六六四〇〇〇
同二年	七六〇〇〇	二四〇〇〇	九六〇〇〇	二四〇〇〇	一四〇〇〇	四〇〇〇	一四〇〇〇	四〇〇〇	二四〇〇〇	二四〇〇〇
同三年	一一四〇〇〇	四一六〇〇〇	一一四〇〇〇	四一六〇〇〇	一四〇〇〇	四〇〇〇	一四〇〇〇	四〇〇〇	一一四〇〇〇	四一六〇〇〇
同四年	一一四〇〇〇	四一六〇〇〇	一一四〇〇〇	四一六〇〇〇	一四〇〇〇	四〇〇〇	一四〇〇〇	四〇〇〇	一一四〇〇〇	四一六〇〇〇
同五年	一一四〇〇〇	四一六〇〇〇	一一四〇〇〇	四一六〇〇〇	一四〇〇〇	四〇〇〇	一四〇〇〇	四〇〇〇	一一四〇〇〇	四一六〇〇〇
同六年	一一四〇〇〇	四一六〇〇〇	一一四〇〇〇	四一六〇〇〇	一四〇〇〇	四〇〇〇	一四〇〇〇	四〇〇〇	一一四〇〇〇	四一六〇〇〇
同七年	一一四〇〇〇	四一六〇〇〇	一一四〇〇〇	四一六〇〇〇	一四〇〇〇	四〇〇〇	一四〇〇〇	四〇〇〇	一一四〇〇〇	四一六〇〇〇

同八年	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	—	—	[illegible]	[illegible]
同九年	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同十年	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同十一年	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同十二年	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	—	—	[illegible]	[illegible]
同十三年	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同十四年	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同十五年	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同十六年	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同十七年	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同十八年	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	—	—	[illegible]	[illegible]
同十九年	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同二十年	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同廿一年	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同廿二年	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同廿三年	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	—	—	[illegible]	[illegible]
同廿四年	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
總計	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

◎製絲十人繰以上の釜數等統計

明治二十一年農商務省の調査に據りて全國十人繰以上の製絲工塲數を掲くれは合計千九百二十五ヶ所にして之を十二年の頃に比すれは千二百六十ヶ所を増し十七年の頃に比すれは七百四十ヶ所を増せり然れとも其全國中五十ヶ所以上の製絲工塲ある地方は僅々七縣にして長野に四百九十三ヶ所岐阜に

三百二十一ヶ所山形に百四十二ヶ所愛知に百三十五ヶ所群馬及富山に各七十七ヶ所埼玉に六十一ヶ所あるのみ其輸出向の良絲を産出する地方は長野、群馬、山梨、滋賀、岐阜、福島の六縣にして之に次くものを神奈川、兵庫、埼玉、三重、愛知、福井の六縣とし長崎、茨城、栃木、靜岡、宮城、岩手、山形、石川、富山、島根、鳥取、山口、福岡、大分、熊本、宮崎、鹿兒島の十七縣は又之に次く元來本邦製絲の價格は常に昂低の差あるは能く衆人の知る所なれとも今試に本年九月中生絲相塲の昂低を掲くれは報告第五號に掲載せし如く器械普通上の九百弗なるとき坐繰普通上八百十弗而折返提絲の如きは又百二三十弗も其價低きにあり僅に百斤の生絲にして器械と坐繰とに九十弗坐繰と提絲とに百弗余即ち器械と提絲との差違二百弗の多きにあるを見れは我國の製絲上に於ては産額増加の外尙絲質改良上に於ても充分の餘地あるものにして當業者たる者豈勉めざる可けんや今左に明治二十一年の調査なる十人繰以上の製絲家に係る釜數等の統計を掲けて參看に供せん

製絲十人繰以上繰釜繰湯運轉繰揚府縣類別表

廳府縣	繰釜ノ數			繰湯ノ別		運轉ノ別			繰揚ノ別	
	器械	坐繰	合計	蒸汽	焚火	汽力	水力	人力	直繰	再繰
北海道	二四	七二	九六	—	五	一	—	四	—	五
東京	一七三	—	一七三	一三	—	一	一	—	—	三
京都	三二八	二五七	五八五	一三	二四	二	三	三三	二二	一五
大阪	二〇	—	二〇	—	一	—	—	一	一	—
神奈川	四八六	九四	五八〇	三	七	五	五	—	—	一〇
兵庫	二九七	四二一	七一八	五	二四	一	六	一三	—	一六

長崎	—	一五七	一五七	—	六	—	—	六	—	六
新潟	二七七	四九一	七六八	—	二三	一	九	一三	—	二三
埼玉	四七一	二,〇九四	二,四六五	六	五五	四	一二	四五	—	六一
群馬	七七四	五,五六三	六,三三七	七	七〇	—	四五	三三	一一	六六
千葉	—	一三	一三	—	一	—	—	一	—	一
茨城	七三	六六四	七三七	—	二九	—	—	二九	—	二九
栃木	一〇〇	九三五	一,〇三五	一	三四	—	三	三一	—	三四
三重	一〇二	六九	一七一	一	三	一	—	三	—	四
愛知	二,二三三	四一〇	二,六四三	三	一三三	一	九	一三五	—	一三五
奈良	—	三三	三三	—	二	—	—	二	—	二
静岡	一三〇	二〇	一五〇	二	二	—	三	一	—	四
山梨	七,一一二	三八	七,一五〇	二〇	一八三	四	一三五	六三	八	一九四
滋賀	一〇〇	三三〇	四三〇	一	一六	—	二	一五	—	一七
岐阜	六,三九一	—	六,三九一	一六	三〇五	—	二〇五	二一六	二一	三〇〇
長野	一一,四一八	一〇八	一一,五三六	三六三	三三三	四	四三八	五〇	八	四八七
宮城	四〇九	二〇一	六一〇	四	六	三	四	四	二	八
福島	一七八	三,九〇四	四,〇八三	—	三三	—	五	二九	—	三四
岩手	二〇七	七一五	九三三	一	一四	—	五	一〇	四	一一
青森	三八	一五五	一八三	—	六	—	一	五	—	六
山形	二,五六五	八七	二,六五三	三	一四一	一二	二三	一一〇	三三	一二二

秋田	一三〇	三一	一六一	—	七	—	三	五	一	六
福井	五〇三	三九六	八九九	二	三四	二	七	二七	一	三五
石川	五六九	二八	五九七	一	二七	—	一一	一七	二	三六
富山	一,五四三	一二	一,五五四	二	七四	—	一一	六五	—	七六
鳥取	一一六	七七	一九三	—	八	—	—	八	一	七
島根	—	三七	三七	—	三	—	—	二	—	三
岡山	二一〇	七二	二八二	二	一四	—	三	一三	一	二五
廣島	七六	四三	一一九	—	六	—	—	六	—	六
山口	—	二四四	二四四	—	五	—	一	四	—	五
和歌山	二〇	—	二〇	—	一	—	—	一	—	一
徳島	—	一〇	一〇	—	一	—	—	一	—	一
愛媛	五一	三〇	八一	—	五	—	—	五	—	五
福岡	六八	二〇〇	二六八	—	一一	—	一	一〇	—	一一
大分	一一三	一五二	二六五	一	一三	—	三	一〇	七	六
佐賀	—	六三	六三	—	三	—	—	三	—	三
熊本	二四	三五	五九	一	三	—	一	二	—	三
宮崎	二〇	三八四	四〇四	一	一〇	一	—	一〇	—	一一
鹿兒島	—	一八五	一八五	—	三	—	—	三	—	三
總計	三七,三〇一	一八,七五九	五三,〇六〇	三四九	一,五八八	四三	六五三	六四四	二一	一,八二七

◎十一月中生絲屑物輸出額統計

十一月中海外へ輸出せし生絲屑物の斤數及元價は左の如し

生絲五十三萬三千三百六十四斤	元價四百二拾五萬千八百五拾壹圓七拾八錢	
玉絲弐百九十壹斤	同　九百五拾壹圓	同
撚糸絲三十貳萬七千九百四十二斤	同　參拾四萬六千五百參拾六圓八拾八錢	同
屑絲三十七萬四千二百十斤	同　貳拾七萬五千九百貳拾五圓四拾八錢	同
空繭七萬三千〇四十五斤	同　六萬七千貳百六拾九圓六拾錢	同
屑繭貳萬千四百九十四斤	同　四千六百七拾圓九拾七錢	同
異綿拾參斤	同　參拾圓〇貳錢	同
屑異綿參萬八千參百九拾壹斤	同　四千百九拾八圓八拾四錢	同
蠶卵紙參千九百拾參枚	同　參千七百九拾圓	同
合計　元價四百九拾五萬五千貳百貳拾四圓五拾七錢		

◎十一月中絹織物輸出額統計

十一月中海外へ輸出せし羽二重等絹織物數量及元價は左の如し

羽二重貳萬五千八百八拾五段	元價四拾五萬〇百五拾一圓九拾錢	
他の諸絹布類五千五百八拾六段	同　三萬四千七百八拾一圓拾九錢	同
綿絹布類八百〇七段	同　千四百七拾壹圓八拾錢	同
絹布手巾六萬參千七百四拾四打	同　拾四萬七千八百三拾七圓參拾九錢	同
絹製品類	同　壹萬六千七百五拾八圓貳拾參錢	同
合計　元價六拾五萬千圓六拾壹錢		

問　答

◎蠶兒眠起異名の原因質問

埼玉縣　大日本養蚕會特別會員　小川武一

普通養蠶家の俚言に蠶兒の眠起の異名即ち初眠を(シヤ)と云ひ二眠を(タカ)或は(タル)と云ひ三眠を(フナ)と云ひ四眠を(ニハ)と云ひ熟蠶を(ヒキル)(ヅル)或は(タイサマ)と云ふ等何に因て附名せしや之が詳細なる原因及ひ之が異字等御教示ありたし

答

蠶兒眠起の異名は常州蠶影神社の起因に基けるものと思はる現に養蠶部後に

戒書に云昔天竺舊中國に霖雨大王とかへるあり后を光契夫人といふ一人の姫あり金色姫といふ后歎し給ふて後大王攻新たに后妃を其上給ふ此后后妬深く姫を憎みて父大王に讒言し姫を獅子吼山といふ處に捨させ給ふ然るに天の加護にや有け心強くなくまし〳〵て獅子に乘りて蒼中國に歸らせ給ふ依て又鷹群山と云ふ所へ捨給ふ此時多くの鷹ども來り肉を供して姫を育みける大王の臣下此よし遙に傳へ聞密に姫を供奉して都に歸る后又姫の歸るを惡み洒眠山と云ふ島へ流し給ふ此時漁夫姫を助けてもとの都に返りける后大きに怒て臣下に命じ御殿の庭を深く堀て姫を埋め殺さんけるに其筋土中より光明赫やきけるをあやしみ大王堀らせ見給ふに波の姫いまだ恙なくあはせしかは又桑の木のうつほ船に乘せ滄海

（流し給ふ然るに此船日本當除國豐良港へ流寄る浦人これを助け介抱しけるに幾程もなく彼巢空しくならせ給ひ其靈魂化して鶴と成けるとかや此故に鶴初の居起を獅子の居起と云二度目の居起を鷲の居起三度目を船の居起四度目を庭の居起といへるは彼巢天竺にて四度の難に遇ひ給ひし事をかたどりてかくは名つけし事とぞ

とあるを見て知るべし（タク）は蚕し（タカ）の轉語なるべし又（ヴー）とは東國の方言に人の老て復起つ能はざるものを如か云ふより轉用したるものなるべし（ヴイテマ）は頑夫樣の義にて俱に蠶鶴と云ふに同じ又（ヒキル）とは老熟の義にて赤ヒキ青ヒキなどの（ヒキ）と云ふ言葉より轉化したるものなるべし

● 外　報

◎蠶鶴改良法

蠶鶴改良の所謂鶴の良種を選ぶは蠶絲社會の最も緊要のことなりしが近着の佛國絹業組誌に左の改良法を記載せり大に當業者の參考と爲すべきものなるを以て玆に報道せん

里昂生絲檢査所分析所技師ヲヨルヤ、クーラン氏は千八百八十八年より短角牛羊種ナウスダーゾウゼルモリ氏の甜葉改良等と同法を以て蠶種の改良を謀り本年に至る僅か五ヶ年を經し其功績大に見るべきものあり今其法方及び結果を得たれは左に掲ぐ

氏は毎年繭量の多き鶴より羽化したる蛾を以て蠶種を製し翌年に至て此蠶種を飼育し成繭の後は再ひ前と同法を以て蠶種を製し漸くして繭量多き鶴を撰出せしめり然るに本年に至り僅かに五ヶ年にして其功績實に大なり乃ち元來同國にありては一「キログラム」の生絲を製するには生繭十一「キログラム」を要せしか本年に至りては同量の生絲を製するに少きは僅かに七「キログラム」三二五にして平均七、キログラム一九五二を以て足れり今例ひ九、キログラム」を以て一キロの生絲を製するものとするも在來種に比すれは一割八分の多量を得べし故に繭一キロに就き六十五、サンチユム」を利するの割合なり

今千八百九十二年一月十三日の蠶業奬勵法に依れは繭一キロに就き五十「サンチユム」の保護にして總計三百萬フランニ達すべし然るに此改良法に依れば此夫出を費ふて尚餘あり

◎三十二萬圓の生絲海底に沈む

過日台灣島の南なるペスカドル群島中サンド島附近に於て難破したる英船ボクハラ號には乘組人多數に百七十人餘は船體と共に沈没溺死したる由なれ積荷の蠶繭となりたるもの赤勝なからず殊に上海にて積込たる生絲は無慮千七百六十六俵に上り是等は悉く海底に沈みたるが一俵平均三百五十圓とすれば其代價實に六十一萬八千百圓に當る眞に大損害と言ふべきなり今其内譯を擧れは左の如し

	生絲		生絲		生絲		生絲
倫敦へ	八〇	アレキサンドリアへ	一一	馬耳薩へ	一四〇	バイルースへ	一三
里昂へ	七三八	孟買へ	三〇八	巴里へ	六〇	新嘉坡へ	三三
倫敦へ	屑絲 七五	馬耳薩へ	屑絲 二四	米國へ	屑絲 一一四		

◎伊太利國蠶絲絹業の統計

伊國農商務省の報告ありて國商業博物館週報に載する所に依れば同國の蠶種、製絲絹業等の統計を示し蠶絲社會の本場國とも云べき伊國なれば掲げて諸氏の參考に供す

伊國農務省の報告に據るに本年同國繭の販賣高及其種類額は左の如し

繭種	販賣高	一基に付平均價額	價額
純粹の伊國蠶種	八、六八三、八一〇基	三・四四〇	二九、八三七、九九九圓
雑種	二、八六八、九五〇	三・四一〇	九、一六九、三四六
種	一、二三八、六三〇	三・〇一〇	三、四三〇、二五九
日本及支那蠶種	三五〇、八四〇	二・八一五	九九一、二三七
日本より種紙に輸入せる蠶種			

其他四十三箇所の市場に於て販賣せられたる繭にして右の表中に算入せられざるもの二十一萬二千四百八十基、此價額七十三萬九千四百七十四圓法あり之を合算すれば本年伊國繭の販賣總高は千三百二十五萬四千七百十基此價額四千四百十六萬八千二百五圓法一基の平均價額は三圓三十八參に當れり但繭の產出高を精密に計算するに方りては右の販賣高は產出高の一部分に過ぎざるとを忘却すべからず又伊國農商務省の調査に據るに本年繭の產出高は凡三千六百六十五萬基此價額一億二千三百八十萬三千七百五拾圓法一基の平均價格は三圓三十七參餘に當れり

前表に於て明瞭なるが如く繭產出高の最大部分を占むるものは伊國の蠶種にして伊國絹業の盛況を呈する所以も亦其蠶種の善良なるに由らずんばあらず故に其自然の結果として內國の蠶種は益々多く內國の養蠶業に使用せらるゝに至れり

伊國の輸出貿易統計表中第一の地位を占むるものは絹貿易なり元來絹業は農業と密接の關係を有するものにして巨額の資金を要し而して幾多の勞働者に生計の道を與ふるものなり左の一覽表は繭の產出高及其貿易高に基き計算したる既往十二年間の絹絲製造高を示すものなり

千八百八十年	千八百八十三年	千八百八十六年	千八百八十九年	三、四四〇、〇〇〇	三、四三〇、〇〇〇
千八百八十一年	千八百八十四年	千八百八十七年	千八百九十年	三、四二〇、〇〇〇	三、四一〇、〇〇〇
千八百八十二年	千八百八十五年	千八百八十八年	千八百九十一年	三、四〇〇、〇〇〇	三、四〇〇、〇〇〇

既往十二年間の伊國生絲の輸出高は左表の如し但し一時伊國に輸入し更に自國の製品として輸出したるものも此に算入す

千八百八十年	三、四六〇、〇〇〇	千八百八十三年	千八百八十六年	三、四〇九、〇〇〇	千八百八十九年
千八百八十一年	三、四三〇、〇〇〇	千八百八十四年	千八百八十七年	三、四〇二、〇〇〇	千八百九十年
千八百八十二年	三、四〇〇、〇〇〇	千八百八十五年	千八百八十八年	三、四〇〇、〇〇〇	千八百九十一年

有輸出生絲の內伊國製のものは別に手工を加へずして直に輸出したるも亞細亞及歐洲諸國より輸入したるものは自國に於て多少手工を加へたる後更に之を輸出せり

今千八百八十五年より同九十年に至る六年間の世界絹絲の產出高を擧ぐれば左の如し

千八百八十五年	九、〇〇二、〇〇〇	千八百八十七年	一、一八八、〇〇〇	千八百八十九年	一、一三八、〇〇〇
千八百八十六年	一、〇五四、〇〇〇	千八百八十八年	一、一五八、〇〇〇	千八百九十年	一、一四四、〇〇〇

絹絲產出高の增加が必しも製絲業進歩の微候ならざることは繭產出高增加すれば生絲產出高の增加を來すべければなり而して生絲產出高の增加したるがため其價格の下落を來したることは曾て伊國に於て絹業經濟上の成跡不良なりしも其技術上の點に於ては大に改良せられたるの結果を呈したるの一事以て之を證すべし

近來伊國に於ける絹絲織物業の著しく改良せられたるは爭ふべからざる事實にして其此に至りたるは此業のために設置せられたる學校の賜に由るなり伊國絹絲織物の輸出入高は大抵同一の比例を保ち來りしが千八百八十七年に於て輸入高の輸出高を超過すること三十九萬五千基に及びしも同年通商條約締結の後千八百八十八年以降は輸入高彼に減退して輸出超過せり即ち右の輸入超過額三十九萬五千基より每年減じて千八百九十年には八百千基となり終に昨年は輸出高反て輸入高より一萬九千基を超過するに至れり

千八百九十年伊國の絹織場に於て使用せる織機の數は一萬四千九百四十九箇にして內二千五百三十五

箇は機械織機一萬八百一十三箇は簡單なる手織機殘り千五百九十一箇は「シャツカール」式の織機に屬し男女職工の數は二万二百十四人にして織物の價額は大約五千五百萬法なりしと云ふ

●雜報

◎蠶業傳習所と生絲直輸出奬勵案議會に出んとす

蠶絲業は我國の命脈とも稱すべき貴重の業にして之を奬勵して其隆盛を謀るは今日の急務たるは既に世人の知る所なりしが今や帝國議會開會に際し衆議院議員中此業に熱心なる諸氏は勿論蠶業振興會國民協會及自由黨等に於ても頃日來類に交渉し先以て蠶業の技術と學理を擴張せんが爲め東京及京都邊に完全なる傳習所を設け學期も二ヶ年と爲し一層學理の程度を高めんとするの計畫なるよし而して生絲直輸を奬勵するは我國の商權を擴張するものにして大に我經濟上の發達を爲すものに付是亦必要のことなりとて我國民に於て生絲を直輸するものへは相當の奬勵金を下附するの方法を爲さんと共に近日議會へ提出する由又此案に對しては他に反對を唱ふる者もなく必す通過するならんと且貴族院に於ても此案に對しては差して意見もなかるべしとのことなり

◎生絲檢査所設置の建議案議會に出つ

生絲檢査所を設置するは前項に同しく方今の急務にして曩に本紙に屢々掲載せし如く政府にありても既に調査せられたるものなりしが本年の議會に提出なきを以て自由黨等に於ては之が提出のと政府へ建議せんと專ら調査中なりと聞き居りしが今其提出ありし案を聞くに左の如くなり

蠶絲は吾邦輸出品中主要の地位に居れり明治二十年より同二十四年に至る五箇年間の平均を視るに其輸出額は一年二千九百三十六萬圓除にて時に或は輸出品の半額を占めんとするあり其消長は以て國家の經濟を通塞するに足らん故に此當源の涵養を勉むるは今日の要務なり然れども政費多端の時確かに該業に向つて保護奬勵せんとするも財政の許さる所なれば奬勵の一端として生絲檢査所を設置するは目下の急務なりとす而して其費額の知るは創立費共僅かに五萬圓に過ぎずして其餘や大なり政府は調査の上檢査所に關する豫算を具し追加豫算として之れを本年度の議會に提出せんことを建議す

理由書

一　生絲市場の實況を僧間俳當時の費套を脫せず品質を檢査し價格を定むる等總て外人の掌裡に歸し我內商は徒らに其獻心を得んことを是れ務むるのみ元來生絲は多孔の品質なるが故に忽にして濕氣を吸收し忽にして之れを失却するものなれば濕氣に盛ずること最も敏捷なるが故に其實量を得るには空中の濕氣を査定し學術上に因て檢査せざる可らず之れ各國檢査所の設けある所以なり然るに吾邦に於て未だ此の設けあらざるを以て彼が示す所の量斤を甘諾せざる可らず之れ內商の損失實に幾何なるや識る可らず

二　生絲の輸出年々增加すると同時に內地新業者の增加は實に著しきものなり外人未だ其製造人に就ての信用甚だ薄きを以て遂に他人の名を假用するもの往々有之然るに檢査所を設け確實なる檢査の證票を示して其實量と細組を明にするに至らば賣買取引上兩者に充分の滿足を與へ其取引を圓滑ならしむるを明なり

三　檢査所を設に當り其官設にすべきは信用上に於て最も必用なりとす之れを當業者の團體に委ねんか其人には最も生絲に利害の關係を有すること深きを以て或は幾分の疑念を免れず故に官設の

檢査を得んことを望むは各國擧て然りとする所なり

四　如斯必要あるが爲めに歐洲諸國に在ては檢査所は何れも數十年已前の設置に係り貴賣兩者の間に立て生絲の斤量絲質の品位絲繊の細粗等を檢査し之れに公證を與へ變方疑惧の念を抱かしめず市場圓滑の取引を爲し檢査せざるものは絶て之を買ふものなく粗惡の品は自ら地を掃ふに至れり今各國の生絲檢査所を調査するに世上に有名なる里昂檢査所の如きは其創立千七百七十九年にして爾逸に英に濠に濠に三十六箇所の設立あり已に一昨二十三年六月支那廣東に於ても檢査所を設立し開來大に信用を博するに至れり我國斯業の長足の進歩をなしつゝある今日之れが設けなきは實に一大欠點とする所なり

右案議院規則第八十六條に依り提出候也

明治二十五年十二月十二日

提出者　彫山秀樹　外七名

賛成者　河野廣中　外廿五名

◎十一月中横濱生絲の概況

十一月中の概況は前月末日即ち十月三十一日に甲九十番が外報に接して非常に買込し後なりしが差して活氣を示さず大手合日は順々穏かに取極りし横濱にて七八日頃ぼつ〳〵來國向の實れ行くのみ佛國向は至て振はず中旬を經て下旬に至るまで殆んど不味落付沈靜又は引續き最入と云ふ言語を以て經過し時に聊か入手合ありしも概して右等の有様荷各日の手合高最高價格等は次項の如し

手合高

日	手合高
一日	二百八十六個
二日	五百四十三個半
三日	五百五十五個
四日	四百四十九個
五日	三百八十七個半
六日	休
七日	五百十二個半
八日	四百六十九個
九日	五百三十七個
十日	四百十四個
十一日	三百六十一個半
十二日	二百十二個
十三日	休
十四日	五百六十八個
十五日	三百〇六個
十六日	四百九十六個半
十七日	二百十七個
十八日	二百五十五個
十九日	百三十四個半
二十日	休

手合最高價格

日	絲場名	價格	器械蒸汽上相場	生絲蒸汽上相場
一日	信州松城館器械（繰糸）	八百七十七弗半	八百五十弗	七百弗
二日	同　伊奈社器械	八百六十五弗	同	同
三日	前橋炎水社	八百三十弗	同	同
四日	信州信陽館等	八百七十七弗半	同	同
五日	同　長信社等	八百七十七弗半	同	同
六日	休			
七日	同　松城館	八百七十七弗半	八百五十弗	七百九十弗
八日	山陽繰糸會社	八百三十弗	同	同
九日	信州片倉	八百五十五弗	同	同
十日	同　明社	八百六十弗	同	同
十一日	同　自鳥社	八百五十二弗半	同	同
十二日	同　伊奈社	八百六十二弗半	同	七百八十弗
十三日	美濃尖綱社器械（繰）	八百十五弗	八百四十弗	七百弗
十四日	江州化次郎繰場器械（繰）	八百六十弗	八百六十五弗	六百九十弗
十五日	信州六安自等器械	八百七十弗	八百三十五弗	六百九十弗
十六日	碧代双松館器械	八百十弗	同	同
十七日	同　松館	八百十弗	同	同
十八日	越中中村（繰）	八百十五弗	同	同
十九日	美濃弄上（繰）	八百弗	同	六百八十五弗
二十日			同	同

廿一日	百六十五個	周防德山器械	八百弗	八百三十弗
廿二日	三百七十七個半	奚濟器械蒲印筆(細)	八百弗	六百八十五弗
廿三日	四百〇二個半	信州龍上館器械	八百二十五弗	八百二十弗
廿四日	三百四十四個	仝信英館同	八百二十五弗	同
廿五日	二百十個	仝丸勝館同	八百四十五弗	同
廿六日	二百〇五個	陸前精工館等同	七百五十弗	同
廿七日	休			同
廿八日	七百四十一個半	信州平野社等同	八百二十五弗	八百二十弗
廿九日	二百五十一個半	信州同	八百三十弗	同
三十日	三百九十六個半	信州俊明社等器械	八百二十弗	同

◎農科大學々科課程の改正

帝國大學にて過般改正せし農科大學々科課程中養蠶論の教程は左の如く變更せられたり

農學科第一部第二年　養蠶論　第二期　毎週二時
同　第二部第二年　同　同　同　同
同　乙　科第二年　同　同　同

◎春蠶絲と秋蠶絲と品質上の優劣

春蠶絲と秋蠶絲との品質に就て大日本農會藝委員遠水聚曹氏は同會員の質問に對し左の如く回答せられたり

秋蠶に於ても矢張春蠶に異なるなしと信ず生繭を直に繰製するときは光澤も敢て春蠶に異ならず乾繭に於ては解舒甚可ならざるのみならず光澤も亦劣れり强伸力は春蠶に甚遜ならざるものありと雖も平均上より言はゞ兩方とも幾分か劣るなら織物にして毛羽立つこと春蠶よりも較多く最上の織物には到底成し難からん價は買人の見込に依りて或は春蠶の價格か又は春蠶の並品よりも上等の價格を以て買ふものもあらん然れども平均より言へは大凡絲百斤に付二三十圓の廉價ならん

◎蠶絲貿易商取締規則の改正

神奈川縣にては養蠶令第五十六號を以て發布せる蠶絲貿易商取締規則中第一條の蠶絲貿易商より伸次商を除き第五條の生絲は一綛又は一把中其否汎淆のもの販賣すべからず但等級を區分し一綛と爲したるものは此限にあらす條項及第八條の商標(農商務省登錄濟のもの)を附せざる生絲には製造人若くは販賣人の住所氏名を記したる印章を附したるものにあらされは販賣すべからすとの兩條を削除する旨本年十月卅一日內海同縣知事より示達しを以て貿易商は一般大に滿足せる由なるが抑も同規則中右は取締の爲に於は種髓常子とも云ふべき兩條を削除して滿足し居るとは如何なることぞ取締上又氣遣はざると得るなり

◎一縣三郡生絲業者鐵道期成聯合會

神奈川縣下武藏國八王子より愛知縣下名古屋に至る豫定鐵道比較線に就き今回山梨縣及長野縣識詩附伊那三郡の生絲業者は見出の如き國幹を設け伊那郡一敷設の事に運動し既に三十名の委員を上京せしめ鐵道會議員は勿論各議員に對し夫々奔走中の由なるが地勢上鐵道の効力より云へば無論伊那線を取るが至當にて急既成の曉には大に交通運輸の利便を與へ特に同地方主要の生產品たる生絲販賣上非常の便益を得るやに聞けり

◎狩獵規則中野鳥の保護

本年十月勅令第八十四號狩獵規則中其第二十六條に於て野鳥の保護に關し左の如く規定せり

第二十六條　第二十四條及第二十五條に掲ぐる鳥獸と雖も野蠶飼養の保護學術研究其他特別の理由に因り驅除又は捕獲を要する時は地方長官は特に其許可を與ふることを得

有害鳥獸を驅除捕獲する爲必要と認むる場合に於ては地方長官は特に其許可を與ふることを得

◎關西蠶絲會第二回通常會始末

明治二十五年十月廿七八の兩日同會に於て審議評決せし案件並に同會より農商務大臣への上申書及其際同會の請に依り出張ありし本會の貴族會員たる今西農商務技手演說の大意を左に掲載して讀者の參考に供す

○審議評決を爲す其案件は左の如し

一、蠶種改良の件

二、養蠶教育の件

三、製絲改良の件

四、博覽會出品價額の標準を立ると

五、蠶絲業組合將來の方針を定むると

六、製絲工男女取締法を設くると

七、生絲檢査所設置の件

八、海外に於る日本絲の狀況を調査報道するの方法

九、開龍世界博覽會出品生絲に要する書類の翻譯の譯字の當否を調査するの方法を設くると

十、關西各府縣三十人取以上の製絲場浩革及商標を明治廿六年二月を期して蒐集すると

○今西直次郎氏演說要旨左の如し

本會は今回も富岡同樣本省へ技術官の出張を請求せられたるを以て乃ち小生豫に出張を命せられたる譯にて昨日來原案編成の打合會會議の臨み其趣旨を同ふに本會は將來の規模を今一層擴張すべき計畫なるに際し如何の都合なるか出會者の意外に少きは遺憾の如くなるも出會人數少しと雖も開會の溯廟なりといふ譯にもあらず且つ何等の事業にても創業の際は諸多の事情の有つて最初より十分の効果を收め得へからざるは皆然り唯不屈不撓將來に蒙固の開眼を作るの目的を貫徹せられんことを希望す之より少し諸君の注意を促す事に付き述ふる所あらんとす

本年養蠶の結果は佛國を除て全世界大抵不作の景況なりき殊に本邦の如きは其不作なるのみならず原質不良にして製絲經濟上大に困難を來たしたるを以て前途如何なる境遇に陥るやと痛嘆已まさる折柄去る七月初旬より我生絲の商況は歐米向共に漸次氣配を持直し八月下旬に至て頓に其商勢を活潑し等落極絲は八百貳拾弗に昇進し九月下旬には更に九百弗以上に昇騰せり之を前三ヶ年九月中平均相場六百貳拾弗に比すれは殆と三百弗の騰貴と云ふべし又新絲製造後即ち去る七月より九月迄三ヶ月間歐米各國へ輸出したる生絲總額は一萬六千七百五十四俵に達し之を前三ヶ年の同期間平均輸出高九千〇八十七俵に對せは七千六百六十七俵の超過にして殆んと一倍の增加なり相場の高價と云ひ輸出の增進と云ひ養蠶不作に對して實に不幸中の幸と謂ふべし然れども斯の如き僥倖は常に見る能はさる所なるを以て此際注意に注意を加へ此反動に狼狽せざるの方策を講する は今日急務なり將た此機に乘じて改良を促すは永遠の福利を期するものと謂ふべし而して其注意の要點如何本會の前回に本會の區域に於て生絲需用の適否是なり此需用の適否に付ては近頃米國駐在帝國領事より報告せる如く又横濱居留外商二三の蠶か米國に歸航して親しく本邦の生絲需用の如何を視察したるものゝ言に據るに何れも繰返の難易よりも一歩進んて强伸力色澤毛試之等の品質上改良を促し來れり蓋し如斯欠點は今に始まれるものに非ずして佛國需用者の如きは疾く已之を發見し余か同國に留學中も到る處此欠點の避を聽かざるなく由之觀たる譯にて昨日來原案編成の打合會會議の臨み其趣旨を同ふに本會は將來の規模を今一層擴張すべき計畫なるに際し如何の都合なるか出會者の意外に少きは遺憾の如くなるも出會人數少しと雖も開會の溯廟なりといふ譯にもあらず且つ何等の事業にても創業の際は諸多の事情の有つて最初より十分の効果を收め得へからざるは皆然り唯不屈不撓將來に蒙固の開眼を作るの目的を貫徹せられんことを希望す之より少し諸君の注意を促す事に付き述ふる所あらんとす

本年養蠶の結果は佛國を除て全世界大抵不作の景況なりき殊に本邦の如きは其不作なるのみならず原質不良にして製絲經濟上大に困難を來たしたるを以て前途如何なる境遇に陥るやと痛嘆已まさる折柄去る七月初旬より我生絲の商況は歐米向共に漸次氣配を持直し八月下旬に至て頓に其商勢を活潑し等落極絲は八百貳拾弗に昇進し九月下旬には更に九百弗以上に昇騰せり之を前三ヶ年九月中平均相場六百貳拾弗に比すれは殆と三百弗の騰貴と云ふべし又新絲製造後即ち去る七月より九月迄三ヶ月間歐米各國へ輸出したる生絲總額は一萬六千七百五十四俵に達し之を前三ヶ年の同期間平均輸出高九千〇八十七俵に對せは七千六百六十七俵の超過にして殆んと一倍の增加なり相場の高價と云ひ輸出の增進と云ひ養蠶不作に對して實に不幸中の幸と謂ふべし然れども斯の如き僥倖は常に見る能はさる所なるを以て此際注意に注意を加へ此反動に狼狽せざるの方策を講する は今日急務なり將た此機に乘じて改良を促すは永遠の福利を期するものと謂ふべし而して其注意の要點如何本會の前回に本會の區域に於て生絲需用の適否是なり此需用の適否に付ては近頃米國駐在帝國領事より報告せる如く又横濱居留外商二三の蠶か米國に歸航して親しく本邦の生絲需用の如何を視察したるものゝ言に據るに何れも繰返の難易よりも一歩進んて强伸力色澤毛試之等の品質上改良を促し來れり蓋し如斯欠點は今に始まれるものに非ずして佛國需用者の如きは疾く已之を發見し余か同國に留學中も到る處此欠點の避を聽かざるなく由之觀

之は米國が今日此欠點を訴へ來れるは機業の進歩實に著しくして已に日本生絲は善眞なる經絲に用ゆる能はざるものとの說起り遂に歐洲產の經絲を仰くの傾きあるか知し之れを要するに米國は我生絲の五割以上を買收する一大花客なれは彼れの需用の適壓に從て亦改良を促すへし殊に米國は夫の八ヶ月間鰲マヌキンレー」彼我則を設けてより歐洲の織物輸入を減少し爾て生絲の輸入を增したるは實に夥しきと已にして是より益々競爭場裏に一大決眞を試るの時期に臨め而して之か勝敗を決するは只需用の適否に由る「し此適否を常かにするは始終彼の狀況を熟ひ信を通するの道を開かゞれはあるべからずれとも到底原實製品を改良するの外なかるべし之を改良する目的は

一蠶種檢査を嚴密にして無毒健全の蠶種を得ること

一養蠶教育の普及法を圖ること在り

一製絲の改良を施して彼の嗜好に適するの方法を設くること在り且つ製絲家は外國需用者と密接の關係あるを以て全國當業者の一致團結を圖ること在り

以上の三項目中先つ蠶卵徹尾施すべきの方法を研究せんとを望む」尙終りに一言す本會のと已に付ては不肖は微力なから製絲業の改良發達を謀る爲には協賛戮力以て盡す所あらんとす

○農商務大臣への上申左の如し

蠶絲業改良標張の義に付上申

一蠶種檢査法を改正せられたきと

現行の蠶種檢査法は唯蠶種紙病毒の檢査を止るものにして之のみにては生絲の改良上に完全の効果を收へからず依て之を改正し蠶見、生繭、病毒を十分に檢査し且原種用幷製絲用紙共自用、販賣を問はず檢査するの方法を發布せられんとを望む

一全國製絲家の諮問會を開かれたきと

凡そ生絲の輸出上に利せんとするには全國の製絲家相團結一致して外國に當るの覺悟無るへからず殊に本年生絲價額暴騰の反響は他日の患を來すの虞あるへきを以て當業者の因究を防くの方策を豫め講究するは最も肝要の事に屬す寡くは政府に於て速に全國の製絲家を召集し以て諮問會を開かるゝの擧あらんとを

一省令を以て蠶絲業組合規則を發布せられたきと

現行蠶絲業組合準則を廢し更に省令を以て左の要領に據り取締の方法を發布せられんとを望む

一蠶絲業に從事する者は組合に入らざるを得す

一組合組織其他の方法は各府縣當業者に於て適宜に規約を結ひ府縣知事の認可を經て施行すへし

一府縣限り一の蚕轉所を設くへし

一規則により處分するもの左の如し

蠶種及蠶絲附屬品の濫造者くは不正の行爲を爲すもの

組合に加盟せす又は組合賦課の經費を出さゝるもの

一主務者に於て各府縣氣脉連通の途を設けられたきと

一養蠶講究所設立のこと

養蠶改良の目的を以て同盟府縣下に私立の養蠶傳習所等の設なきに非るも是等は概して一地方當業者の營利的に密接したる組織なるを以て一般の蠶業をして改良增進せしむるの餘裕に乏しとす養蠶は生絲の前身にして生絲の改良を計らんと欲せは必ず先つ養蠶講究所の設置無るへからす宜しく國費を以て當業者の負擔を目安として各府縣に之を設けられんとを切望す

一生絲檢査所設立のこと

生絲檢査所の設けさる可らさる所以のものは既に明かなり尚も我邦の生絲をして海外に信用を得せしめんと欲せは横濱神戸に生絲檢査所を設るに若くは無し神戸港の如き生絲輸出の業は尚幼稚に屬するを免れすと雖漸次其高を增さんとし製產家も孜々之に從事しつゝあれは玆に檢査所を設る時は輸出の便路を得て其產額を增すに至るへく即ち該業を發達せしむるの一方法とも爲るへし而して急よ之を設る上に於て横濱神戸は共に同一の組織とし相軒輊なからしめんを要す何となれは横濱と神戸は生絲の現在輸出に就ては固より大に差違ありと雖近年關西生絲業の發達見るへき者あるのみならす檢査所の設立は其發達を助長せしめんとの目的をも含むものなるを以てなり

一日本生絲海外に於る狀況調査のこと

輸出生絲の海外に於ける狀態如何は內地製絲業者の十分知悉せんことを欲する所なり然れとも民間の今日に在ては未た其調査の方法を證すの場合に運はす依て農商務省に於て之を調査の上本會へ示すの手順とせられんとを即ち其調査すへき點は

一日本生絲需要上の適否

一日本生絲販路の實況及其要途

一海外各國養蠶製絲經濟の大要

差向き右三項なれとも尙蠶絲に關する有益の事項は時々併せて調査せられたく斯れは實に當業者の便益を得る少らさるなり速に之を聽許實行あらんとを望む

但し調査の次第を本會に示されたる時は一々之を同盟各府縣の當業者へ周知せしむの方法を設くる筈

右本會之決議により上申候也

明治廿五年十月卅一日

關西蠶業會頭　田湖澄

農商務大臣伯爵後藤象二郎殿

◎製絲汽鑵の破裂

近來製絲場汽鑵の破裂すること屢々にて去月六日丹波氷上郡佐治村の製絲場に於ても汽鑵破裂して死傷ありたりと云ふ實に本年の如く一年に數度斯る失事か度々ある如何そや豈に製絲家たるの注意すべきとならすや

◎大日本蠶絲會員の新加

大日本蠶絲會員の新加左の如し

○賛成會員

東京　堀正太郎　東京　田中延次郎

○特別會員

京都　荒木武雄　兵庫　見島虎次郎　埼玉　鈴田篤郎

奈域　宗田永井昇平　栃木　齋藤良三郎

三重　神川亮吉　栃木　長野多田恕助　岡山　小野繁

福岡　高橋美壽　福岡　塚本寅太郎　大分　香川大造

大分　工藤芳彦

○通常會員

京都　綿田時藏　京都　木村淀太郎　神奈川　小作八太郎

神奈川　川島昌純　神奈川　柳内純三　神奈川　三岡勘三

神奈川　島田六助　群馬　武井嘉作　千葉　岡田忠

千葉　中村善太郎　栃木　金子幸三　栃木　荒木常松
栃木　齋藤信吉　栃木　關根鑒次郎　長野　奈良井勝治
滋賀　岡本兵藏　青森　若林先之進　福岡　下坂始
鹿兒島　諏訪精夫　（此他御入會者あれども印刷の都合に依り次號に讓る）

◎正誤

報告第四號十六頁十五行の觀感は云々とある以下三行は刪除及ひ報告第五號五十頁特別會員の埼玉縣山竹藏は栃木縣山竹三の誤り